

平成 29 年 度

北海道立総合研究機構
道南農業試験場年報

平成 30 年 9 月

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

資料の取り扱い

本資料掲載の研究成績等については未公開のものであるため、複製、転載及び

引用に当たっては、必ず原著者の了承を得た上で利用して下さい。

平成 29 年 度

北海道立総合研究機構 道南農業試験場年報

目 次

I 概 要	1
1. 沿 革	1
2. 位置及び土壌	1
3. 面積及び利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職員の配置	3
6. 職 員	3
7. 歳入決算額	4
8. 歳出決算額	4
9. 建 物	5
10. 新たに購入した備品	5
II 作 況	6
1. 気象概況	6
2. 当該作況	9
III 試験研究及び地域支援活動	11
1. 試験研究・地域支援の概要	11
(1)生産環境グループ(栽培環境)	11
(2)生産環境グループ(病虫)	11
(3)地域技術グループ(作物)	11
(4)地域技術グループ(地域支援)	11
2. 試験研究・地域支援の内容	13
(1)生産環境グループ(栽培環境)	13
(2)生産環境グループ(病虫)	13
(3)地域技術グループ(作物)	14
(4)地域技術グループ(地域支援)	15
3. 道南地域農業技術支援会議の活動	16
4. 平成29年度普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項	17
5. 論文ならびに資料	19
(1)研究論文	19
(2)口頭発表	19
(3)専門雑誌、著書・資料	21
(4)新聞記事	23
6. 印刷刊行物	24
7. 技術指導・技術相談	24

IV	その他の活動	27
1.	職員研修	27
2.	研修生の受け入れ	28
3.	参観	28
4.	主催事業等	28
5.	マスコミ対応	30
6.	委員会活動	31
7.	場内研修	33
8.	表彰・資格	33
9.	外部委員会等への参加	34
V	自己点検	37
1.	平成29年度計画に係る項目別実績の自己点検結果	37
	付表1. 作物標準栽培法の概要	40
	付表2. 土壌の理化学的特性	41

I 概 要

1. 沿革

(1) 戦前

道南農業試験場は、明治42年、亀田郡大野村（現在の北斗市）に北海道庁立渡島農事試験場（総面積9.85haの内、畑0.46ha、水田0.40ha）として開設された。翌43年には北海道拓殖計画に基づく農業試験機関の統合により国に移管され、北海道農事試験場渡島支場と改称、水稻、麦類及び豆類などの試験に着手した。

明治44年には果樹（りんご、なし類、おうとう、ぶどう及びもも）の栽培を開始した。さらに、大正7年からは水稻品種改良に純系分離育種法を取り入れるなど、道南地方の自然条件に適合する稲作、畑作及び園芸の試験研究を推し進めた。その間、水稻、大豆などで多くの優良品種を育成するとともに農業経営方式の確立に努め、地域農業の発展に貢献した。昭和17年には北海道農業試験場渡島支場と改称した。

(2) 戦後

昭和25年、全国農業試験研究機関の整備統合により従来の機関は国立、道立に二分され、当時は道費支弁の北海道立農業試験場渡島支場となった。昭和28年、大野町字向野に用地3haを買収して果樹園を移設し、さらに昭和36年からは庁舎、調査室及び作業室等施設の整備拡充計画を推進した。

昭和39年、道立農業試験場の機構改革により北海道立道南農業試験場と改称した。昭和46年には、施設園芸の近代的推進の中核的役割を果たす農業者及び技術指導者などを養成する目的で施設園芸の研修施設としては道内最大のプラスチックハウス（約0.1ha）を設置した。さらに昭和56、57年にはコンピューター制御による環境制御温室と地温制御温室の完成を見ている。昭和62年には全国的な「農業試験研究情報システム」整備の一環として情報処理室を設置し、道立農業試験場各場間を結ぶ情報ネットワーク（HARIS）が整備された。その結果、各種農業情報や研究情報などの有効利用が促進されることとなった。

平成元年、完全自動化された花き省エネ栽培温室を設置し、同3年には植物馴化装置（3連グロースキャビネット）を導入し、翌年には米の食味分析計を整備した。なお、果樹試験は、研究基本計画に基づく機構改正により平成4年3月31日をもって道立中央農業試験場に統合された。

平成6年、前年の大冷害の経験から冷水田の整備が行われ、水稻品種の耐冷性強化のための新たな施設が完成した。平成7年には、庁舎の増改築が行われ高精度実験室や50人規模の会議室が新設されたほか、専技室に技術相談室が整備された。

平成12年、水稻優良品種開発施設として稲の世代促進を目的とした年3期作が可能な水田温室と管理棟が完成し、13年から本格的な品種開発試験を開始した。

また、平成12年の研究科の再編統合に伴い、機動的な研究体制とするために、園芸科と土壤肥料科が統合され、「園芸環境科」が誕生した。さらに、専門技術員室は専技と研究職の次長からなる、研究成果の実証・体系化を行う「技術普及部」に改組され、研究部（園芸環境科、病虫科、作物科、管理科）とあわせて2部体制が敷かれた。

その後、本道農業を巡る情勢の変化に伴い平成18年より道南圏（渡島、檜山）における園芸を主とした地域対応研究に特化した場と位置づけられ、水稻、いちごの育種担当場から品種開発支援場となった。同時に組織の再編も行われ、研究部は、作物、栽培環境、病虫および管理科の4科となった。一方、技術普及部には部長以下、次長、主任普及指導員（旧主任専技）、地域支援の主査が配置された。

(3) 独法後

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、これまでの北海道立道南農業試験場は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部道南農業試験場に改組された。研究部は地域技術、生産環境グループの2グループ制となり、2研究主幹ならびに主査(作物)、主査(栽培環境)、主査(病虫)および主査(地域支援)が配置された。普及指導員は、北海道農政生産振興局技術普及課の道南農試在勤技術普及室として配置されることになり、上席普及指導員、主任普及指導員および主査(地域支援)の3名体制となった。旧技術普及部の普及センター等関係機関に対する地域支援業務は、技術普及室の3普及指導員および地域技術グループ研究主幹、主査(地域支援)により対応することとなった。28年には、新しく育苗ガラス温室を整備した

2. 位置及び土壌

当該（北斗市本町680番地）は、北緯41° 53′、東経140° 39′、海拔25mに位置し、JR函館本線新函館北斗駅から南に3km、函館市の北約20kmのところにある。地形は平坦で、土壌は褐色低地土（河成沖積）に分類される。水田土壌は腐植を含む埴壤土（減水深30～40mm/日）である。40～50cm以下は砂礫層となっている。作土の粘着性、可塑性がやや強く、硬度（ち密度）は約18mm、鋤床層で約22mmである。斑鉄は作土でやや少なく、鋤床層でやや多い。マンガン斑は作土、鋤床

層ともに観察されない。なお、作土深は12cm余、鋤床層は8～15cmでやや厚い。

一方、畑地では表層に腐植を含む壤土が分布しており、次層は壤土～砂壤土、50～70cm以下は礫にすこぶる富む砂壤土～礫層となっている。構造は不鮮明であるが、孔隙がやや発達し、保水性は中庸で、粘着性、可塑性がやや強い。全般に膨軟で礫層の深い所まで根が分布している。

3. 面積及び利用区分

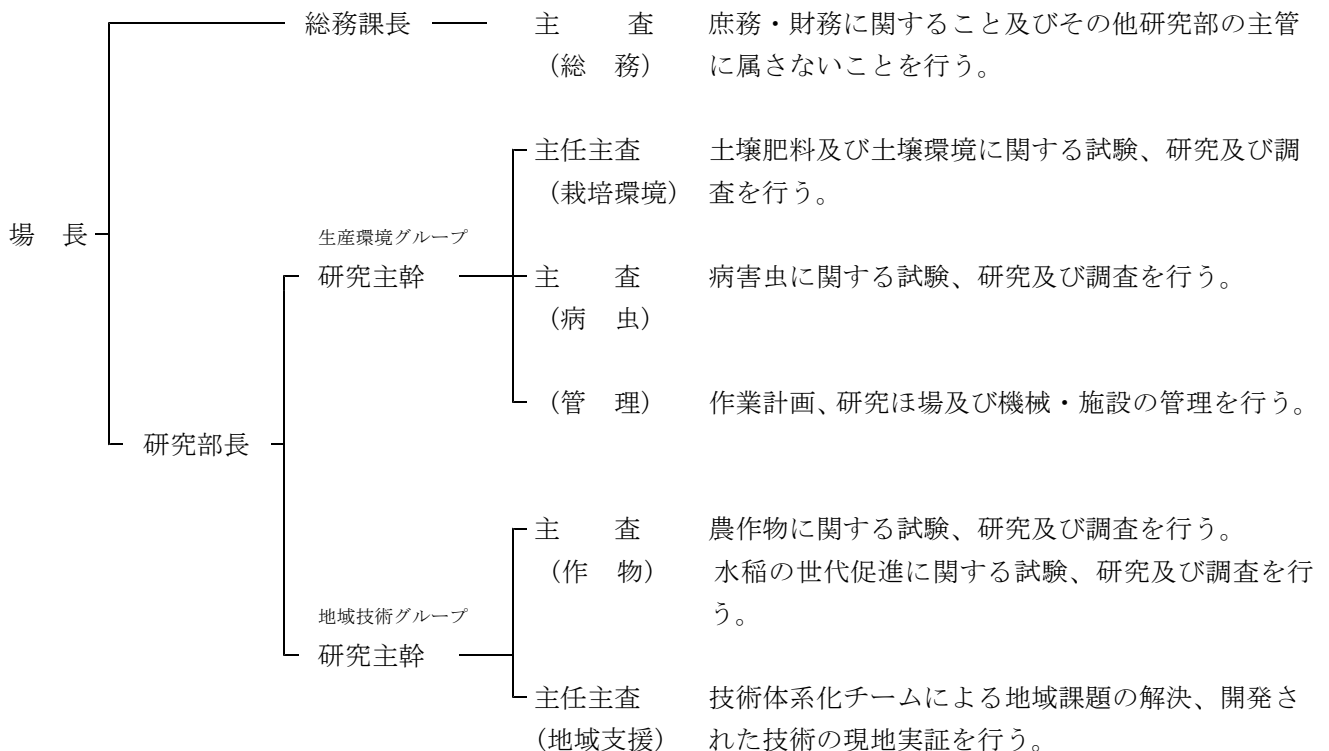
総面積 127,202 m²

区 分	面 積	区 分	面 積
構内建物用地	20,372m ²	試験ほ場（畑）	37,290m ²
道 路	10,530	〃（緑地管理）	24,715
防 風 林	2,170	そ の 他	17,125
試験ほ場（田）	15,000	計	127,202

※借地も含む。

4. 機 構

（平成29年3月31日現在）



(参考)

技術普及室（北海道農政部技術普及課、道南農試に常駐）

上席普及指導員－主任普及指導員－主任主査（地域支援）

5. 職員の配置

(平成29年3月31日現在)

	場 長	研究 部長	研究 主幹	総務課		裁 培 環 境	病 虫	管 理	作 物	地 域 支 援	計
				課 長	総 務						
研 究 職	1	1	2			1	3		3	1	12
行 政 職				1	3						4
研究支援職								3			3
計	1	1	2	1	3	1	3	3	3	1	19

6. 職 員

(1) 現在員

(平成29年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
場 長	加 藤 淳	研究主幹	中 住 晴 彦
研究部長	佐 藤 毅	主査(作物)	尾 崎 洋 人
研究主幹	日 笠 裕 治	研究主任	田 澤 暁 子
主任主査(栽培環境)	奥 村 理	〃	高 濱 雅 幹
主査(病虫)	青 木 元 彦	主任主査(地域支援)	乙 部 裕 一
研究主査	角 野 晶 大	総務課長	小 滝 宏 樹
研究主任	三 澤 知 央	主査(総務)	佐々木 光 浩
主 任	佐々木 盛 久	主 任	石 黒 一 幸
主 任	竹 内 達 哉	主 任	中 村 圭 志
技 師	順 西 奈 緒	計	19名

(2) 転入者及び新規採用者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
研究部長	佐藤 毅	29. 4. 1	上川農試から	主査(総務)	佐々木光浩	29. 4. 1	胆振総合振興局から
主任主査 (地域支援)	乙部 裕一	29. 4. 1	原子力環境センターから				

(3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
研究部長	丹野 久	29. 3. 31	退 職	主査(総務)	渋谷美香子	29. 3. 31	渡島総合振興局へ
主査(地域 支援)	林 哲央	29. 3. 31	原子力環境センター				

7. 歳入決算額

(単位：円)

予 算 科 目	決 算 額	備 考
依頼試験手数料等	226,840	
農産物売払収入	591,018	
法人財産使用料等	215,171	
国庫受託研究収入	2,256,000	
道受託研究収入	1,552,960	
その他受託研究収入	10,323,000	
施設整備費補助金収入	12,356,000	
合 計	27,520,989	

8. 歳出決算額

(単位：円)

予 算 科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
業 務 費			
重点研究費	1,900,000	1,545,301	
経常研究費	10,363,000	10,354,816	
技術普及指導費	440,110	439,076	
研究用備品整備費	1,843,072	1,843,072	
維持管理経費(研究)	725,000	725,000	
一般管理費			
維持管理経費	29,207,922	29,113,868	
運営経費	21,202,718	20,978,103	
受託研究等経費			
国庫受託研究費	2,082,000	2,082,000	
道受託研究費	1,603,000	1,603,000	
その他受託研究費	9,916,000	9,916,000	
補助金			
施設整備費補助金	12,356,000	12,355,200	
繰越積立金			
施設整備費(繰越積立金)	4,277,000	4,276,800	
重点研究費(繰越積立金)	0	0	
合 計	95,915,822	95,232,236	

※事業費支弁人件費振替額を除く

9. 建 物

(1) 公用財産

	本 町			向 野		
	棟数	面積(m ²)	建築年次	棟数	面積(m ²)	建築年次
庁舎	1	969.12	S36			
記念館	1	132.23	T 8			
ポンプ室	1	6.48	S44			
調査室	1	165.25	S44			
物品庫	1	66.11	S45			
燃料費	1	8.30	S45			
ポンプ小屋	1	9.88	S45			
便所	1	9.72	S26			
ガス格納庫	1	4.95	S49			
環境制御温室	1	534.15	S56			
総合倉庫	1	133.85	S58			
管理科兼土壌実験室	1	197.35	S59			
車庫	1	100.75	S60			
果樹品質調査室				1	66.42	S63
花き省エネ栽培温室	1	655.92	H 1			
農機具格納庫	1	350.00	H 2			
作業室	1	145.74	H 3			
昆虫飼育実験室	1	106.92	H 4			
土壌病害虫総合実験温室	1	275.04	H 5			
便所	1	6.62	H 5			
揚水舎	1	3.31	H 7			
ポンプ室				1	2.25	S42
農業資材倉庫	1	243.00	H 9			
水田温室	1	2,340.00	H10			
運搬車用車庫	1	86.49	H15			
育苗ガラス温室	1	252.00	H28			
トラクター車庫	1	84.95	H29			
計	25	6,803.18		2	68.67	

10. 新たに設置した主要施設及び備品

(単価50万円以上、単位：円)

品 名	規 格	数 量	金 額	備 考
トラクター車庫	84.95 m ²	1	4,752,000	
低温恒温器	MIR - 254 - PJ	1	529,200	
サーマルサイクラー	Veriti-96-well	1	993,600	

Ⅱ 作 況

1. 気象概況

根雪初日は平年に比べ4日早く、根雪終日は5日遅く、根雪期間は平年より9日長かった。また、耕鋤始は2日早く、晩霜は8日早かった。

4月： 平均気温は1.0℃、最高気温は1.0℃、最低気温は0.9℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より22.5mm多く、平年の130%であった。日照時間は7.5時間少なく、同96%であった。

5月： 平均気温は1.0℃、最高気温は0.8℃、最低気温は0.8℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より24.4mm少なく、平年の71%であった。日照時間は11.7時間多く、同106%であった。

6月： 平均気温は0.9℃、最低気温は1.2℃、最高気温は1.2℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より93.8mm多く、平年の243%であった。日照時間は10.3時間多く、同106%であった。

7月： 平均気温は1.8℃、最高気温は2.0℃、最低気温は1.3℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より40.1mm少なく、平年の71%であった。日照時間は25.5時間多く、同120%であった。

8月： 平均気温は2.1℃、最高気温は2.9℃、最低気温は1.6℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より30.1mm少なく、平年の80%であった。日照時間は35.2時間少なく、同76%であった。

9月： 平均気は1.3℃、最高気温は0.4℃、最低気温は2.1℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より10.4mm少なく平年の92%であった。日照時間は42.7時間多く、同127%であった。

10月： 平均気温は0.4℃、最高気温は0.5℃、最低気温は0.4℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より31.0mm多く平年の130%であった。日照時間は5.8時間少なく、同96%であった。

本年の初霜は10月14日で平年より7日早く、初雪は11月13日で平年より4日遅かった。

以上、農耕期間の気象についてまとめると、気温は平年に比べて、4月、5月、7月は高温、6月と8～10月は低温だった。

降水量は、6月上旬、9月中旬、10月下旬は平年を大きく上回ったが、降雨が少ない期間も長く、特に9月上旬はほとんど降雨が無かった。

日照時間は全体としては平年より多かったが、6月上旬、8月中旬は平年の半分以下だった。

5月から9月の積算では、平年に比べ平均気温では45℃少なく平年の98%、降水量は11mm少なく同98%、日照時間は55時間多く同107%であった。

季節調査(年.月.日)

区別	根雪初日	根雪終日	降雪終日	耕鋤始	晩 霜	初 霜	降雪初日
本年	H28.12.15	H29.3.17	H29.4.14	H29.4.7	H29.4.24	H29.10.14	H29.11.13
平年	12.19	3.12	4.11	4.9	5.2	10.21	11.9
比較	▲4	5	3	▲2	▲8	▲7	4

注1) 函館海洋气象台(函館市美原)の観測値を使用した。平年値は前10か年の観測値を使用して道南農試で作成。

注2) 耕鋤はじめは農試データ。

注3) 表中▲は「早」を示す。

農耕期間積算値(5～9月)

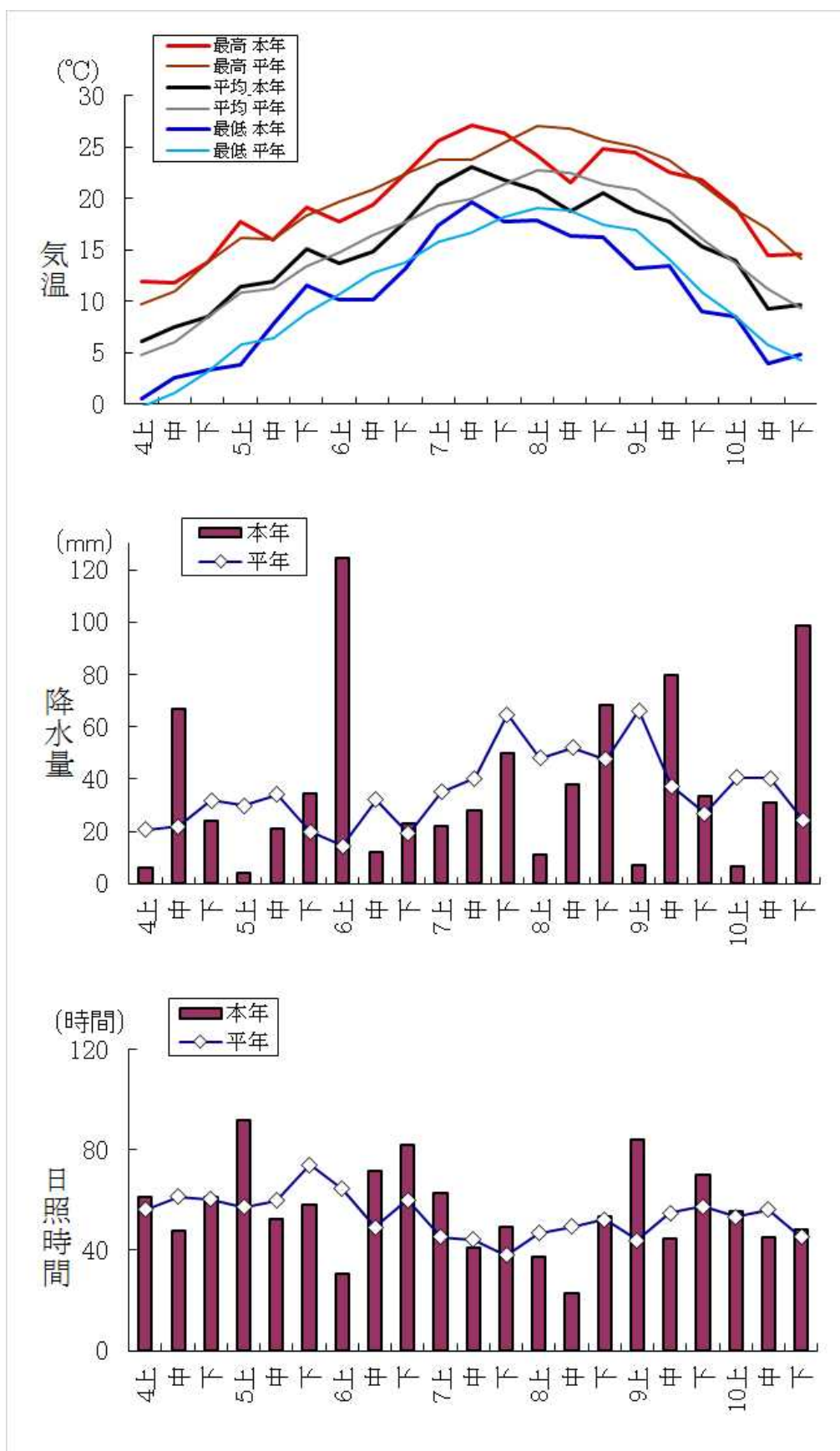
区別	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)
本年	2683	557	852
平年	2728	568	797
比較	-45	-11	55

注) 本年値は北斗市のアメダスデータを使用し農試で作成。平年値は前10か年の北斗市のアメダスデータを使用し農試で作成。

気象表（平成29年）

月旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4上	6.1	4.8	1.3	11.9	9.7	2.2	0.6	-0.3	0.9	6.0	20.7	▲14.7	61.5	56.3	5.2
中	7.5	6.0	1.5	11.8	11.0	0.8	2.6	1.1	1.5	67.0	21.9	45.1	47.8	61.3	▲13.5
下	8.5	8.5	0.0	13.8	13.8	0.0	3.3	3.1	0.2	24.0	31.9	▲7.9	61.2	60.4	0.8
5上	11.4	10.9	0.5	17.8	16.2	1.6	3.9	5.8	▲1.9	4.0	29.8	▲25.8	92.0	57.1	34.9
中	11.9	11.2	0.7	16.0	16.1	▲0.1	7.8	6.5	1.3	21.0	34.1	▲13.1	52.5	59.8	▲7.3
下	15.1	13.4	1.7	19.2	18.3	0.9	11.5	8.9	2.6	34.5	20.0	14.5	58.2	74.1	▲15.9
6上	13.7	14.8	▲1.1	17.7	19.7	▲2.0	10.2	10.7	▲0.5	124.5	14.5	110.0	30.7	64.6	▲33.9
中	14.8	16.4	▲1.6	19.4	20.9	▲1.5	10.2	12.7	▲2.5	12.0	32.1	▲20.1	71.6	49.2	22.4
下	17.7	17.7	0.0	22.4	22.4	0.0	13.2	13.8	▲0.6	23.0	19.1	3.9	81.8	60.0	21.8
7上	21.3	19.3	2.0	25.6	23.8	1.8	17.4	15.8	1.6	22.0	35.1	▲13.1	62.7	45.4	17.3
中	23.0	19.9	3.1	27.1	23.8	3.3	19.7	16.7	3.0	28.0	40.3	▲12.3	41.0	44.2	▲3.2
下	21.8	21.4	0.4	26.4	25.4	1.0	17.7	18.2	▲0.5	50.0	64.7	▲14.7	49.5	38.1	11.4
8上	20.8	22.7	▲1.9	24.2	27.1	▲2.9	17.9	19.1	▲1.2	11.0	48.1	▲37.1	37.4	46.9	▲9.5
中	18.7	22.5	▲3.8	21.6	26.8	▲5.2	16.4	18.8	▲2.4	38.0	52.1	▲14.1	22.7	49.5	▲26.8
下	20.5	21.3	▲0.8	24.8	25.7	▲0.9	16.2	17.4	▲1.2	68.5	47.4	21.1	53.5	52.4	1.1
9上	18.7	20.8	▲2.1	24.5	25.0	▲0.5	13.2	16.9	▲3.7	7.0	66.2	▲59.2	84.2	43.9	40.3
中	17.8	18.8	▲1.0	22.6	23.8	▲1.2	13.4	14.1	▲0.7	79.5	37.3	42.2	44.7	54.8	▲10.1
下	15.4	16.1	▲0.7	21.8	21.4	0.4	9.0	10.9	▲1.9	33.5	26.9	6.6	69.9	57.4	12.5
10上	14.0	13.8	0.2	19.2	18.9	0.3	8.5	8.6	▲0.1	6.5	40.5	▲34.0	55.6	53.4	2.2
中	9.3	11.3	▲2.0	14.5	17.0	▲2.5	4.0	5.8	▲1.8	31.0	40.3	▲9.3	45.4	56.2	▲10.8
下	9.7	9.4	0.3	14.6	14.1	0.5	4.9	4.3	0.6	98.5	24.2	74.3	48.2	45.4	2.8
月	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4月	7.4	6.4	1.0	12.5	11.5	1.0	2.2	1.3	0.9	97.0	74.5	22.5	170.5	178.0	▲7.5
5月	12.9	11.9	1.0	17.7	16.9	0.8	7.9	7.1	0.8	59.5	83.9	▲24.4	202.7	191.0	11.7
6月	15.4	16.3	▲0.9	19.8	21.0	▲1.2	11.2	12.4	▲1.2	159.5	65.7	93.8	184.1	173.8	10.3
7月	22.0	20.2	1.8	26.4	24.4	2.0	18.2	16.9	1.3	100.0	140.1	▲40.1	153.2	127.7	25.5
8月	20.0	22.1	▲2.1	23.6	26.5	▲2.9	16.8	18.4	▲1.6	117.5	147.6	▲30.1	113.6	148.8	▲35.2
9月	17.3	18.6	▲1.3	23.0	23.4	▲0.4	11.9	14.0	▲2.1	120.0	130.4	▲10.4	198.8	156.1	42.7
10月	11.0	11.4	▲0.4	16.1	16.6	▲0.5	5.8	6.2	▲0.4	136.0	105.0	31.0	149.2	155.0	▲5.8
注1) 観測値は北斗市のアメダスデータを使用、平年値は前10か年による。															
注2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。															

気象図（平成 29 年）



2. 当场作況

水 稲 良

播種は平年より2日遅い4月21日に行った。出芽までの日数は平年より1日短く、移植時の苗の形質は、草丈は平年より短く、茎数は平年並から上回り、葉数と地上部乾物重は平年をやや下回ったが、充実度は平年を上回った。

移植は平年より2日早い5月19日に行った。移植直後は天候に恵まれたため苗の活着は良好だったが、その後は6月下旬まで低温寡照傾向が続いたため、初期生育は停滞した。平年と比較して、幼穂形成期は1日遅く、止葉期は同等から2日遅く、出穂期は同等から1日早かった。草丈は、6月までは平年より短かったがその後は平年より長く推移した。茎数は平年より少なく推移したが、8月には平年並から上回った。主稈葉数は生育期間を通じて概ね平年並に推移し、止葉葉数も平年並だった。出穂と開花は順調で、登熟期間

は多照だが低温に経過したため登熟は緩慢に進み、平年と比較して成熟期は7～8日遅く、登熟日数は7～9日長かった。

平年と比較して成熟期の稈長はやや長く、穂長は同等からやや長く、 m^2 あたり穂数は同等からやや多く、一穂粒数は同等からやや上回り、 m^2 あたり粒数は97～103%だった。稔実歩合は平年よりやや高く、登熟歩合は平年並から上回ったため、 m^2 あたり登熟粒数は平年並から上回った。

精玄米千粒重は平年をやや上回り、屑米歩合はやや下回り、収量は「ふっくりんこ」では平年の116%の65.8kg/a、「ななつぼし」では同111%の65.9kg/aであった。

なお、検査等級は心白や腹白が指摘され、「ふっくりんこ」は平年をやや下回ったが、「ななつぼし」ではやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

生育及び収量調査成績（平成29年）

項 目	ふっくりんこ			ななつぼし			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播 種 期 (月日)	4.21	4.19	2	4.21	4.19	2	
出 芽 期 (月日)	4.26	4.25	1	4.26	4.25	1	
移 植 期 (月日)	5.19	5.21	▲ 2	5.19	5.21	▲ 2	
幼 穂 形 成 期 (月日)	7.04	7.03	1	6.30	6.29	1	
止 葉 期 (月日)	7.18	7.18	0	7.16	7.14	2	
出 穂 期 (月日)	7.28	7.28	0	7.25	7.26	▲ 1	
成 熟 期 (月日)	9.20	9.13	7	9.17	9.09	8	
穂 揃 日 数 (日)	6	5	1	6	6	0	
登 熟 日 数 (日)	54	47	7	54	45	9	
生 育 日 数 (日)	152	147	5	149	143	6	
移植時乾物重 (g/100本)	2.62	2.80	▲ 0.18	2.40	2.76	▲ 0.36	
地上部乾物重/草丈	0.25	0.20	0.05	0.22	0.21	0.01	
草丈(cm)	移植時	10.5	13.7	▲ 3.2	10.7	13.4	▲ 2.7
	6月20日	29.0	32.5	▲ 3.5	31.2	34.3	▲ 3.1
	7月20日	78.0	69.7	8.3	80.7	73.9	6.8
	8月20日	99.6	90.4	9.2	96.5	91.7	4.8
茎数(本/m ²)	移植時	120	91	29	87	88	▲ 1
	6月20日	436	571	▲ 135	403	530	▲ 127
	7月20日	850	858	▲ 8	783	802	▲ 19
	8月20日	742	712	30	699	706	▲ 7
葉数(枚)	移植時	3.2	3.4	▲ 0.2	3.1	3.4	▲ 0.3
	6月20日	7.1	7.7	▲ 0.6	7.5	7.8	▲ 0.3
	7月20日	11.0	10.8	0.2	11.0	10.7	0.3
	8月20日	11.0	10.8	0.2	11.0	10.7	0.3
止 葉 葉 数 (枚)	11.0	10.8	0.2	11.0	10.7	0.3	
成熟期	稈長 (cm)	77.2	74.1	3.1	76.1	74.1	2.0
	穂長 (cm)	16.0	16.1	▲ 0.1	16.5	16.0	0.5
	穂数 (本/m ²)	715	690	25	689	687	2
一 穂 粳 数	46.7	45.5	1.2	48.5	48.8	▲ 0.3	
m ² 当 粳 数 (×1000)	33.4	32.5	0.9	33.4	34.3	▲ 0.9	
m ² 当 稔 実 粳 数 (×1000)	31.6	30.4	1.2	32.0	32.4	▲ 0.4	
m ² 当 登 熟 粳 数 (×1000)	30.9	25.9	5.0	29.1	29.2	▲ 0.1	
稔 実 歩 合 (%)	94.7	93.7	1.0	95.9	94.4	1.5	
登 熟 歩 合 (%)	92.5	80.6	11.9	87.2	85.5	1.7	
粳 摺 歩 合 (%)	77.5	75.8	1.7	81.5	79.8	1.6	
屑 米 重 (kg/a)	4.8	4.4	0.4	1.6	2.3	▲ 0.7	
屑 米 歩 合 (%)	6.8	7.1	▲ 0.3	2.4	3.5	▲ 1.1	
千 粒 重 (g)	23.2	22.9	0.3	22.4	21.8	0.6	
わ ら 重 (kg/a)	72.5	66.5	6.0	73.2	67.3	5.9	
精 粳 重 (kg/a)	84.9	75.1	9.8	80.9	74.3	6.6	
精 玄 米 重 (kg/a)	65.8	56.9	8.9	65.9	59.3	6.6	
収 量 平 年 比 (%)	116	100	—	111	100	—	
玄 米 検 査 等 級	2中	2上	—	1下	2上	—	

注1)平年値は、前7か年中、平成23年(最豊年)、同22年(最凶年)を除く5か年の平均値を用いた。

注2)苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m²(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3)本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ0.8、0.97、0.69(kg/a)施用した。

注4)篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5)登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6)表中▲印は「減」または「早」を示す。

Ⅲ 試験研究及び地域支援活動

1. 試験研究・地域支援の概要

(1) 生産環境グループ（栽培環境）

経常研究では、「環境保全型有機質資源施用基準の設定調査（土壌機能実態モニタリング調査）」において、生産者圃場6地区12地点の土壌調査等を実施した。

経常(各部)研究では、「トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術の開発」において、スイートコーンの化学肥料窒素5割削減のリスク評価を行うとともに、5割削減に伴う代替技術を検討した。「リン酸肥料のセル成型苗施肥によるブロッコリーの圃場減肥技術の確立」では、ブロッコリーのセル成型苗にリン酸を増肥することによる圃場の施肥量削減技術を検討した。「地力窒素を考慮した夏秋どりトマトに対する施肥対応技術の開発」では、従来の硝酸態窒素に加え、熱水抽出性窒素を診断項目とする窒素施肥対応法について検討した。

道受託研究では、「農業農村整備事業等に係る土壌調査」において所定の土壌調査等を実施し報告した。

受託(国庫)研究では、「農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査、定点調査）」において、生産者圃場6地区12地点の土壌調査およびアンケート調査を行った。

(2) 生産環境グループ（病虫）

経常研究では、「夏季高温で多発する水稻の紋枯病および疑似紋枯病の発生実態解明及び防除対策の確立」を実施した。

クリーン農業に関する課題として、経常(各部)研究「スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立」および「転炉スラグを用いたpH矯正によるハウレンソウ萎凋病の被害軽減対策とリスク評価」を実施した。

公募型の課題では、内閣府SIP事業のうち、「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発 体2-（1）北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発、体3-（1）北海道におけるイチゴ病害虫の新防除体系の実証」を実施した。

農作物病害虫診断試験では合計52件の診断依頼があった。

病害虫発生予察事業では農試定点ほにおける各作物（水稻、ばれいしょ、キャベツ）の主要病害虫（斑点米カメムシ、コナガ、いもち病等）の発生状況を調査

し、結果を病害虫発生予察情報として提供した。

新農業資材では殺虫剤8剤、殺菌剤15剤の効果試験を実施し、殺虫剤2剤、殺菌剤7剤が指導参考事項となった。

(3) 地域技術グループ（作物）

水稻試験では、奨励基本(移植)において、耐倒伏性および玄米品質に優れた「上育470号」（対照：「ゆめぴりか」）、収量性・炊飯米外観に優れた「上育474号」（対照：「ななつぼし」）、収量性に優れた「空育191号」（対照：「きらら397」・「そらゆき」）の有望度を「やや有望」とした。「空育189号」（対照：「きらら397」・「そらゆき」）は収量性に優れるものの、後続系統と比較すると各農業特性がやや劣るため、有望度は「やや劣る」とした。奨励基本(直播)では移植直播兼用の早生系統「上育471号」は収量性がやや劣ったものの、現地からの熟期分散に向けたニーズが高いため「やや有望」とした。また、硬化性の低い「上育糯472号」は対照品種である「きたゆきもち」「はくちょうもち」に比べ収量性・白度が高く農業特性に優れるものの、当地区で栽培されている「風の子もち」には収量性が及ばないため有望度については「やや劣る」とした。

畑作試験では、奨励基本試験において、大豆では白目中大粒の「十育263号」を再検討、「十育267号」をやや劣る、黒大豆の「十育262号」をやや劣る、「十育268号」を再検討とした。小豆では普通小豆でコンバイン収穫適性が優れる「十育173号」をやや有望、加工適性が優れる「十育170号」をやや劣るとした（いずれも単年度評価）。

園芸試験では、「無加温ハウスを利用した葉菜類の冬季生産技術」が普及推進事項、「北海道におけるさつまいもの無加温育苗技術」および「トマト単為結果性品種の栽培特性と果実評価」が指導参考事項となった。また、「野菜の地域適応性検定」ではいちご春どり新品種「ゆきララ」の生育・収量について確認した。

新資材の実用化試験では、水稻除草剤10剤が指導参考事項となった。

(4) 地域技術グループ（地域支援）

地域農業が直面する技術的な課題の解決を目指し

て、地域で実施される試験に対する支援や技術的な情報の提供等を、研究部、技術普及室、各農業改良普及センター、渡島総合振興局、檜山振興局、関係団体と連携を密にしながら行った。また、渡島地域農業技術

支援会議、並びに檜山地域農業技術支援会議の取組として、地域における課題の把握に努めるとともに、要望があった課題について、下記のようなプロジェクトチームを組織して取り組んだ。

プロジェクトチーム（平成28年4月）

チーム長 地域技術G研究主幹 中住 晴彦

分 担 事 項	期 間	チ ャ ム 員 所 属 ・ 職 ・ 氏 名
炭酸ガス施用によるニラの通年出荷技術の確立 （平成27年度渡島地域農業技術支援会議要望課題；炭酸ガス施用によるニラの通年出荷技術の確立）	平成28～ 29年	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 ----- 技術普及課道南農試駐在(技術普及室) 上席普及指導員 高橋 恒久 主任普及指導員 猫塚 雅彦 主査(地域支援) 辻 敏昭
北斗市におけるトマトの褐色根腐病の対策 （平成28年度渡島地域農業技術支援会議要望課題；北斗市におけるトマトの褐色根腐病の対策）	平成29年 ～	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 生産環境G研究主査 角野 晶大 生産環境G研究主任 三澤 知央 ----- 技術普及課道南農試駐在(技術普及室) 上席普及指導員 高橋 恒久 主任普及指導員 猫塚 雅彦 主査(地域支援) 辻 敏昭
ハウス立茎アスパラガスにおける低収要因の解明と栽培改善 （平成26年度道南地域農業技術支援会議要望課題；ハウス立茎アスパラガスの経年劣化に伴う改植技術等の確立）	平成28～ 29年	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 ----- 技術普及課道南農試駐在(技術普及室) 上席普及指導員 高橋 恒久 主任普及指導員 猫塚 雅彦 主査(地域支援) 辻 敏昭
大豆「ゆめのつる」割れ対策の検討 （平成28年度檜山地域農業技術支援会議要望課題；「ゆめのつる」の割れの発生軽減対策）	平成28～ 29年	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 地域技術G研究主任 田澤 暁子 ----- 技術普及課道南農試駐在(技術普及室) 主査(地域支援) 辻 敏昭
春まき小麦「春よ恋」低収要因の解明と対策 （平成28年度檜山地域農業技術支援会議要望課題；春まき小麦「春よ恋」の収量増加対策）	平成29年 ～	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 地域技術G研究主任 田澤 暁子 ----- 技術普及課道南農試駐在(技術普及室) 主査(地域支援) 辻 敏昭

2. 試験研究・地域支援の内容

—— (1) 生産環境グループ（栽培環境） ——

I 経常研究

1 経常研究

(1) 環境保全型有機質資源施用基準の設定調査

1) 土壌機能実態モニタリング調査

(平成11年～継続、経常、中央・上川・十勝・根釧・北見と分担)

目的：北海道の耕地土壌の理化学性の実態、変化の方向および土壌管理のための留意点を明らかにし、適正な管理および土壌肥沃度の維持に役立てる。

(2) 農作物の病害虫診断試験

1) 生理障害診断

(昭和50年～継続、経常)

目的：農業改良普及センター、技術普及室などを通して依頼される農作物の生理障害などを迅速に診断し、適切な指示を行うことによって被害を最小限にとどめる。

2 経常（各部）研究

(1) クリーン農業総合推進事業

1) トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術の開発

(平成26～28年、経常（各部）) 29年も実施

目的：スイートコーンのトンネル早熟・露地マルチ作型における化学肥料窒素5割削減栽培技術を確立する。

2) リン酸肥料のセル成型苗施肥によるブロッコリーの本圃減肥技術の確立

(平成27～29年、経常（各部）)

目的：ブロッコリーのセル成型苗にリン酸を増肥することによる、本圃の施肥量削減技術を確立する。

3) 地力窒素を考慮した夏秋どりトマトに対する施肥対応技術の開発

(平成29～32年、経常（各部）)

目的：地力窒素が高いハウスで栽培される夏秋どりトマトについて、従来の硝酸態窒素に加え、熱水抽出性窒素を診断項目とする窒素施肥対応法を開発する。

II 道受託研究

1 農業農村整備事業に係る土壌調査

(平成40年～、道受託、中央・上川・十勝・根釧・北見農試と分担)

目的：道営土地改良事業の新規採択地区の計画に当たり土壌調査を実施し、土地改良に当たっての技術的指針を示す。

III 受託研究

1 受託（国庫）研究

(1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業 (農地管理実態調査、定点調査)

(平成25～32年、受託、中央・上川・天北・十勝・根釧・北見農試と分担)

目的：全国の農耕地における土壌炭素の貯留量と営農管理による変動を明らかにする一環として、北海道の農耕地で調査を行う。

—— (2) 生産環境グループ（病虫） ——

I 経常研究

1 経常研究

(1) 農作物の病害虫診断試験

1) 突発及び新発生病害虫の診断試験

(昭和50年～継続、経常)

目的：突発または新発生病害虫の診断を行い、農作物の被害を最小限にとどめる。

(2) 夏季高温で多発する水稻の紋枯病および疑似紋枯病の発生実態解明及び防除対策の確立

(平成27～29年、経常、中央農試と共同)

目的：水稻の紋枯病・疑似紋枯病の発生・被害の実態を解明し、紋枯病および疑似紋枯病の防除対策を確立する。

2 経常（各部）研究

(1) クリーン農業総合推進事業

1) スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立

(平成27～29年、経常（各部）上川農試と共同)

目的：スイートコーンの8、9月どり栽培において、雌穂を加害する害虫の被害実態を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。

2) 転炉スラグを用いたpH矯正によるホウレンソウ萎凋病の被害軽減対策とリスク評価

(平成29～31年、経常(各部)生産環境グループ(裁環)と共同)

目的：ハウレンソウ萎凋病対策として、道内産転炉スラグでの被害軽減効果および持続効果を確認するとともに、施用に伴うリスクの有無を明らかにする。

II 道受託研究

1 病害虫発生予察調査

(1) 水稲病害虫発生予察定点調査

(2) 畑作病害虫発生予察定点調査

(3) 園芸作物病害虫発生予察定点調査

(昭和19年～継続、道受託)

目的：植物防疫法にもとづいて病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、病害虫防除所と連携して発生予察情報を関係機関に提供して病害虫防除の適正化を図る。

III 公募型研究

1 北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発

(平成26～30年、公募型、中央農研等と共同研究)

目的：北海道地域に適した低コストで処理作業が容易で深層まで消毒可能な新規資材を用いた土壌還元消毒技術を開発し、トマト株腐病、褐色根腐病、サツマイモネコブセンチュウに対する防除効果を検証する。また、北海道における新規土壌還元消毒の導入マニュアルを作成する。

2 北海道におけるイチゴ病害虫の新防除体系の実証

(平成29～30年、公募型、中央農研等と共同研究)

目的：紫外線照射技術を基幹としたイチゴ病害虫(ハダニ類、うどんこ病)に対する新防除体系を北海道において実証し、導入マニュアルを作成する。

IV 受託研究

1 新農業資材の実用化試験

(昭和45年～継続、民間受託)

目的：新殺菌剤および殺虫剤の病害虫に対する防除効果および薬害を検討する。

(3) 地域技術G(作物)

I 重点研究

1 保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立

(平成29～31年、重点)

目的：地域の気候特性に対応したハウスの保温装備と積雪対策、栽培可能な野菜品目と年間を通じたハウスの利用技術を明らかにすることにより、全道広域で利用可能な新たなハウスの無加温周年利用技術を確立する。

II 経常研究

1 経常研究

(1) 水稲新品種育成試験

1) 障害に強く高品質で安定生産可能な北海道米品種の開発促進

(平成26～31年、経常)

ア 地域適応性試験(奨励品種決定基本調査)

目的：水稲品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、育成系統の広域適応性を評価する。

イ 品種育成期間短縮のための大型水田温室を利用した世代促進

目的：水稲品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、品種育成期間を短縮させる。

2) 小豆地域適応性検定試験

(平成13年～継続、経常)

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定する。

3) いちご地域適応性検定試験

(昭和63年～平成29年、経常)

目的：花・野菜技術センター育成系統の道南地域における地域適応性を検討する。

4) さつまいも生産における収益向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価

(平成27～29年、経常)

目的：北海道独自の育苗技術開発による種苗コスト低減と北海道産さつまいもの加工適性について府県産との比較および品種選定を行う。

2 経常（各部）研究

(1) 水稲新品種育成試験

1) 奨励（水稲）（水稲奨励品種決定現地調査）

（昭和29年～継続、経常（各部））

目的：有望品種・系統の道南現地における適応性を明らかにし、奨励品種決定の資とする。

(2) 新優良品種普及促進事業

1) 水稲新品種普及促進事業

（昭和41年～継続、経常（各部））

目的：新品種の普及を促進するため、優良品種候補の有望系統について、種子の増殖を行う。

(3) 奨励品種決定調査

1) 大豆奨励品種決定基本調査

（平成13年～継続、経常（各部））

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定し、奨励品種決定の資とする。

2) 大豆奨励品種決定現地調査

（昭和29年～継続、経常（各部））

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

3) 小豆奨励品種決定調査

（昭和46年～継続、経常（各部））

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

III 公募型研究

1 新たな簡易米飯評価法を用いた実需ニーズに対応した業務用多収品種の開発

（平成27年～31年、公募型（農食事業））

目的：新たに開発した簡易米飯評価法を用いて、消費者が求める値頃感と美味しさを兼ね備えた、丼物と弁当用に適する業務用多収品種を早期に開発する。

2 地域ブランド強化のための高品質食用・加工用サツマイモ品種の開発

（平成27年～31年、公募型（農食事業））

目的：北海道に適した、高品質な食用・加工用サツマイモ品種を開発する。

3 大納言小豆における刈り遅れによる雨害黒変粒等の外観品質低下条件の解明

（平成29～30年、公募（その他））

目的：道南地域の大納言小豆品種において、刈り遅れによる外観品質の変化、特に雨害による黒変粒発生条件について明らかにすることにより、同地域の大納言小豆生産物の外観品質向上に寄与する。

4 リーフレタスの低コスト湛液型簡易養液栽培における環境に優しい培地の選定

（平成28年、公募型（栗林育英学術財団））

目的：湛液型簡易養液栽培による環境保全型のリーフレタス栽培法確立を目的に、廃棄容易な培地の探索を行う。

IV 受託研究

1 新農業資材の実用化試験

(1) 水田除草剤実用化試験

（昭和34年～継続、民間受託）

目的：新除草剤による除草効果及び水稲の生育収量に及ぼす影響について検討し、今後の除草体系確立の資とする。

(2) 園芸作物の除草剤及び生育調節剤実用化試験

（昭和39年～継続、民間受託）

目的：園芸作物に対する新しい除草剤、生育調節剤及びその他資材の実用性を検討する。

(4) 地域技術G（地域支援）

I 経常研究

1 経常（各部）研究

(1) 革新的技術導入による地域支援

1) 檜山地域におけるハウス立茎アスパラガス栽培管理法の現地実証

（平成29～30年、経常（各部））

目的：檜山地域の経年化したハウス立茎アスパラガス栽培において、適切な収穫方法と栽培管理・適切な施肥と堆肥施用の休止による土壌養分の低減化により高収量が維持されることを実証し、地域に定着させる。

II 普及センターの支援要望課題に対する対応

1 水田土壌の窒素含量測定に係る支援

① 担当：地域技術G 乙部裕一

② 対象：渡島農業改良普及センター稲作担当者

③ 内容

稲作担当者会議で取り組まれた「作期中アンモニア態窒素の測定」に関して、水田土壌のアンモニア態窒素の測定方法を講義するとともに、現地圃場の土壌を測定した。

2 花き栽培ハウスの土壌化学性改善について

① 担当：地域技術G 乙部裕一

② 対象：渡島農業改良普及センター広域主査

③ 内容

花き生産者 39 軒のハウス土壌を採取し、pH、EC、無機態窒素、有効態リン酸、交換性塩基の測定を行った。

3 ハウス野菜（ハクサイ、カブ等）のナメクジ対策

① 担当：生産環境 G 青木元彦

② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者

③ 内容

普及センターのナメクジ防除効果確認実証ほ調査の同行するとともに、ナメクジの産卵ふ化確認(7/5)を行い情報提供を行った。

4 いちご（ゆきララ：空知35号）の生育及び管理

① 担当：地域技術 G 中住晴彦

② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者

③ 内容

ゆきララの現地試作農家 2 戸に対し、花・野菜技術センター担当者の巡回と合わせ、春の生育および着果、着色状況を把握し、今後の管理に対する助言を行った。やや着果数が少ないが、大果傾向であった。晩秋期の生育についても確認し、ほぼ良好な生育であった。

5 露地野菜（にんじん、だいこん、ねぎ等）に発生するリゾクトニア菌の輪作体系に伴う相互感染の実態

① 担当：生産環境G 三澤知央

② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者

③ 内容

「リゾクトニア菌の特徴と農作物被害軽減のために必要な知識」と題した研修会を行い、12 名が参加し、リゾクトニア菌の病害に対する見識を深めた。

6 イネ縞葉枯病におけるウンカの発生状況と対策

について

① 担当：生産環境G 青木元彦

② 対象：渡島農業改良普及センター北部支所

③ 内容

ヒメトビウンカならびに縞葉枯病調査を行い、保毒虫率の情報提供、密度低減方法（畦畔防除など）の検討を行った。次年度以降も継続して支援を行う。

7 水稻苗の異常褐変症状への対応法の確立

① 担当：地域技術 G 乙部裕一

② 対象：檜山農業改良普及センター稲作担当者

③ 内容

基本的なリン酸過剰症状の対応を情報提供した。中苗マットでの発症は、何らかの養分過不足が生じていると考えられ、培土量や追肥量に注意する必要があることを情報提供した。

8 有機稲作栽培技術のマニュアル化

① 担当：地域技術G 乙部裕一

② 対象：檜山農業改良普及センター有機担当者

③ 内容

新規乗用型除草機の除草能力を確認し、除草機セッティング（振動ツースを深く入れる）等を検討した。施肥について作期中の土壌窒素分析を支援した。

Ⅲ 地域農業技術センター連絡会に対する支援

① 目的：道南地域における農業生産の振興を図るため、檜山管内の町立農業技術センターの実務者を中心にした農業関連技術の情報交換を支援する。

② 日時：平成 29 年 4 月 26 日（総会）

平成 29 年 10 月 12 日～13 日（秋季研修会）

平成 30 年 1 月 11 日（役員会）

3. 地域農業技術支援会議の活動

I 設置趣旨

農政の大きな転換と農業・農村に対するニーズの多様化が進み、農業政策も地域の自主性や創意工夫を重視する方向へと変化し、地域課題も一層高度化・多様化している。このような中で、渡島総合振興局及び檜山振興局管内の農業及び農業関連産業が直面する課題に試験研究と普及組織、振興局行政が迅速かつ的確に対応するため、地域農業を支援する推進体制として、

「渡島地域農業技術支援会議」、並びに「檜山地域農

業技術支援会議」を設置している。

Ⅱ 渡島地域農業技術支援会議

1 代表者会議

- ① 日時：平成29年6月22日、平成30年1月31日
- ② 場所：渡島農業改良普及センター
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所
- ④ 内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告、運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況、次年度要望課題への対応指針、要望課題の把握方法等。

2 地域関係者会議

- ① 日時：平成30年2月20日
 - ② 場所：渡島農業改良普及センター
 - ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、管内市町、JA、ホクレン、指導農業士
 - ④ 内容：プロジェクト課題の実施および取りまとめ報告、次年度要望課題への対応方針。
- 3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等
事務局会議3回、要望課題およびプロジェクトにかかる会議6回、プロジェクト調査8回。

Ⅲ 檜山地域農業技術支援会議

1 三者会議

- ① 日時：平成29年6月12日、平成30年1月29日
- ② 場所：檜山農業改良普及センター
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター
- ④ 内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告、運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況、次年度要望課題への対応指針、要望課題の把握方法等。

2 地域関係者会議・新技術セミナー

- ① 日時：平成30年2月23日
- ② 場所：せたな町民ふれあいプラザ
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター、管内町、JA、指導農業士・農業士、ホクレン等。
- ④ 内容：プロジェクト課題の実施報告およびとりまとめ報告、次年度要望課題への対応方針。

3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議3回、要望課題およびプロジェクトにかかる会議8回、プロジェクト調査9回。

4. 平成29年度普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項

I 普及推進事項

(1) 無加温ハウスを利用した葉菜類の冬季生産技術

道内の厳寒期において保温装備を組み合わせること
で無加温ハウスの作物周辺の最低温度を-3.0～-4.5℃
に維持できる。本条件下で栽培可能な葉菜類の品目を
明らかにし、リーフレタス・こまつなの冬季栽培体系
を示した。冬季栽培のこまつなやベビーリーフは、慣
行の春～秋栽培や他県産と比べて糖度が高く、実需の
評価も高かった。

Ⅱ 指導参考事項

(1) 北海道におけるさつまいもの無加温育苗技術

購入切り苗を4月中～下旬に無加温ハウスに定植
し、5月中旬以降伸長した側枝から本圃定植に適した6
節以上の苗を確保する技術を確立し、種苗コストを半
減させた。育苗ハウスでの切り苗栽植密度は16株/m²
で、地上部7節で摘心し、1株から9本以上採取でき
る。採苗後定植まで15～20℃で10日間貯蔵可能で
あった。

(2) トマト単為結果性品種の栽培特性と果実評価

トマト単為結果性品種はホルモン処理をしなくても
安定的に着果し、平均1果重は軽いが収穫果数が多い
ため概ね基準収量(10,000kg/10a)に達した。株間およ
び畦間は慣行法が適したが、摘果は十分な効果が煮ら
れなかった。果実品種は非単為結果性品種と遜色なく、
生食用・業務用として利用可能であった。

(3) トンネル早熟・露地マルチスイートコーンに おける化学肥料5割削減栽培技術

スイートコーンのトンネル早熟および露地マルチ
作型において、堆肥あるいは発酵鶏ふんを代替資材と
する化学肥料窒素5割削減栽培技術を確立した。本技
術により両作型とも慣行区と比較して同等か高い収量
が得られ、補填する有機物に堆肥を用いることで収量
は増加した。

(4) セル成型苗施肥によるブロッコリーのリン酸 減肥技術

市販の園芸用育苗培土に熔リンを添加し、リン酸含
量を10,000mg/Lとした培土を育苗に用い、圃場リン

酸施肥量を標準の 50%量とした場合、標準栽培に比べリン酸吸収量を大きくは低下することなく同程度の収量を得ることができる。

(5) 水稻の紋枯病と赤色菌核病の発生実態と防除対策

道内におけるイネ紋枯病および疑似紋枯病の発生・被

害の実態を解明し、茎葉散布剤・水面施用剤・育苗箱施用剤による防除対策を確立した。

(6) 新農業資材

道南農試で試験を実施した殺虫剤 2 剤、殺菌剤 7 剤、水稻除草剤 7 剤を指導参考事項とした（薬剤名省略）。

5. 論文ならびに資料

(1) 研究論文

論文名	学会誌名	巻号数	ページ			著者名
炊飯処理後の各種米粉投与がラットの腸内発酵に与える影響	日本栄養・食糧学会誌	70	61	—	67	永田龍次、佐川愛、韓圭鎬、島田謙一郎、加藤清明、佐藤毅、福島道広
Identification of quantitative trait loci for rice grain quality and yield-related traits in two closely related <i>Oryza sativa</i> L. subsp. <i>japonica</i> cultivars grown near the northernmost limit for rice paddy cultivation	Breeding Science	67	191	—	206	木下乃梨子、加藤雅幸、川島拓也、小矢崎圭、加藤清明、西村勉、平山裕治、高牟禮逸朗、佐藤毅、加藤清明
ハウレンソウケナガコナダニに対するアセタミプリドベイト剤（1%）の効果	北日本病害虫研究会報	68	203	—	206	青木元彦
First report of leaf sheath rot of Welsh onion caused by nine taxa of <i>Rhizoctonia</i> spp. and the characteristics of the pathogens	J Gen Plant Pathol	83	121	—	130	三澤知央、黒瀬大介、国永史朗
First report of spinach leaf spot caused by <i>Stemphylium</i> sp. Subgroups C2 and E3 and pathogenicity comparison of the pathogen with related pathogens	J Gen Plant Pathol	83	147	—	151	三澤知央、黒瀬大介、柏森美如、岩館康哉、對馬誠也
First report of <i>Rhizoctonia</i> disease of lily caused by <i>Rhizoctonia solani</i> AG-11 in Japan	J Gen Plant Pathol	83	406	—	409	三澤知央、柏森美如、黒瀬大介、戸田武
First report of <i>Rhizoctonia solani</i> AG-1 IC causing head rot of cabbage in Japan	New Disease Reports	36	12	—		三澤知央、青木元彦
北海道におけるシュンギク炭疽病の発生	北日本病害虫研究会報	68	13	—	16	三澤知央、堀田治邦
<i>Botrytis squamosa</i> によるニラ葉鞘腐敗症状	北日本病害虫研究会報	68	81	—	84	三澤知央
<i>Botrytis squamosa</i> によるニラ白斑葉枯病に対する各種薬剤の防除効果：第2報	北日本病害虫研究会報	68	85	—	89	三澤知央、美濃健一、角野晶大
北海道の施設トマトにおける牛糞堆肥連用時の窒素施肥量の削減	日本土壌肥料学雑誌	88(3)	234	—	237	林哲央、日笠裕治
施設ハクサイ収穫後の土壌残存窒素の推定と後作トマトに対する窒素施肥量の算出法	日本土壌肥料学雑誌	88(6)	549	—	553	奥村理、細淵幸雄、日笠裕治
道南地域でのリーフレタス冬季無加温栽培における定植時期と管理温度の検討	北海道園芸研究談話会報	51	受理済み			高濱雅幹・植野玲一郎・尾崎洋人・宗形信也・中住晴彦

(2) 口頭発表

発表名	発表学会等名	開催地	開催期間 (月日)			発表者名
<i>Alternaria petroselinii</i> によるパセリー葉柄褐変症状の発生	平成29年日本植物病理学会大会	盛岡市	4/26	—	4/28	三澤知央、黒瀬大介
新規資材糖含有珪藻土を用いた土壌還元消毒法における細菌群集の変化	平成29年日本植物病理学会大会	盛岡市	4/26	—	4/28	李哲揆、飯田敏也、角野晶大、三澤知央、加賀友紀子、前田征之、川部眞登、松田絵里子、大谷洋子、村元靖典、渡辺秀樹、中保一浩、大熊盛也
北海道での冬季栽培におけるリーフレタスおよびコマツナの内部成分および活性変動	園芸学会H29秋季大会	江別市	9/1	—	9/3	高濱雅幹、大坪雅史、清水健志、鳥海滋、植野玲一郎、宗形信也、尾崎洋人、中住晴彦

(続き)

北海道のハウス土壌における熱水抽出性窒素の季節変動	日本土壌肥料学会	仙台市	9/5	—	9/7	林哲央、日笠裕治
アミロースオートアナライザーを用いた新たなもち硬化性選抜法の検討	日本育種学会	盛岡市	10/7	—	10/9	道満剛平、平山裕治、佐藤毅
ネギ葉枯病菌 <i>Stemphylium vesicarium</i> の学名を <i>Stemphylium</i> sp. 系統群 C2 に変更する	平成29年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/20	—		三澤知央・黒瀬大介、佐藤豊三
道央地域の各種園芸作物から分離した <i>Colletotrichum</i> 属菌の同定と諸特性	平成29年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/21	—		三澤知央、西脇由恵、佐藤豊三
<i>Rhizoctonia solani</i> AG-1 IA, AG-1 IB, AG-1 IC の菌核生存に対する土壌還元消毒の影響	平成29年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/22	—		三澤知央、美濃健一
トマト株腐病菌 <i>Rhizoctonia solani</i> AG-3 PT に対する土壌還元消毒の効果	平成29年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/23	—		三澤知央、角野晶大
<i>Rhizoctonia solani</i> AG-5 によるトリカブト立枯病(新称)	平成29年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/24	—		森万菜実、三澤知央、飯田修、高尾泰昌、辰尾良秋、村上芳哉、黒崎文也、佐藤豊三
大納言小豆における雨害黒変粒発生について —実施中試験の照会と経過報告—	十勝あずき研究会	音更町	11/23	—	11/25	田澤暁子
極大粒大豆「ゆめのつる」における割れ粒の発生について	日本育種学会・日本作物学会北海道談話会	江別市	12/2			田澤暁子
ハウス夏秋どり栽培における単為結果性トマト品種の特性	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/4			大久保進一、高濱雅幹、尾崎洋人、中住晴彦
摘果が単為結果性トマト品種‘バルト’および‘F1-82CR’に与える影響	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/4			大久保進一、高濱雅幹、尾崎洋人、中住晴彦
道南地域でのリーフレタス冬季無加温栽培における定植時期と管理温度の検討	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/4	—		高濱雅幹、植野玲一郎、尾崎洋人、宗形信也、中住晴彦
当麻町「でんすけすいか」におけるスイカリング症の発生要因と解明	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/4			樋口裕二、大倉万依(上川農改)、新村昭憲(道総研上川農試)、山名利一(道総研中央農試)、青木元彦(道総研道南農試)、斯波肇(胆振農改東胆振)、鴨下孝子(空知農改北空知)、杉浦輝陽(ホクレン)
Health Functional Properties of Adzuki Beans Produced in Hokkaido	国際雑穀会議2017	中国・大慶市	12/14	—	12/16	加藤 淳
ハクサイの早春まきハウス作型におけるナメクジ被害軽減対策の検討	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/4			植松徹、金ヶ崎一美、青木元彦、高橋恒彦
北海道南部地方に飛来したオオタバコガに対する有効薬剤の探索	第71回 北日本病害虫研究会	青森県八戸市	2/15	—	2/16	青木元彦
北海道の水稲における各種菌核性病害の発生状況と赤色菌核病菌の越冬	第71回 北日本病害虫研究会	青森県八戸市	2/15	—	2/16	野津あゆみ、三澤知央、美濃健一
ニラ白斑葉枯病に対する各種薬剤の防除効果:第2報	北日本病害虫研究発表会	仙台市	2/23	—		三澤知央、美濃健一、角野晶大
農業生物資源バンクに <i>Rhizoctonia solani</i> として登録された菌株の菌糸融合群・亜群同定	平成30年度 日本植物病理学会	神戸市	3/25	—	3/27	三澤知央、黒瀬大介
道南農業試験場のさつまいもに関する取組について	さつまいも試作報告会	函館市	2/26			加藤 淳
<i>Rhizoctonia solani</i> AG -1 IB によるニンジン葉腐病(新称)	平成30年度 日本植物病理学会	神戸市	3/25	—	3/27	森万菜実、坂内泰輔、三澤知央
<i>Colletotrichum coccodes</i> によるトマト果実腐敗の国内発生	平成30年度 日本植物病理学会	神戸市	3/25	—	3/27	白井佳代、三澤知央、佐藤豊三
ゲノム選抜による北海道水稲品種へのいもち病抵抗性遺伝子 <i>pi21</i> の高速導入と準同質遺伝子系統の評価	第133回日本育種学会	福岡市	3/25	—	3/26	道満剛平、佐藤博一、平山裕治、佐藤毅、福岡修一、山内歌子、田中淳一、米丸淳一

(3) 専門雑誌、著書・資料

公表・成果名	雑誌名	号数	ページ			著者名
施設栽培ほうれんそうにおける化学合成農薬・化学肥料5割削減栽培技術と作型別評価	ニューカントリー	11月号	48	—	49	青木元彦
北海道における有機栽培ばれいしょの安定生産技術 3.ジャガイモ疫病の防除対策	北農	84巻2号	145	—	149	清水基滋、田村元、角野晶大
北海道で発生した園芸作物の新病害・その21 ホウレンソウ立枯病・テン	北農	84巻2号	150	—	154	三澤知央
北海道で発生した園芸作物の新病害・その22 カボチャ菌核病	北農	84巻4号	366	—	368	三澤知央
北海道で発生した園芸作物の新病害・その23 サツマイモ灰色かび病	北農	85巻1号	15	—	17	三澤知央
水稲 イネドロオイムシ(イネクビボンハムシ)	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	266		267	青木元彦
水稲 イネキモグリバエ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	283			青木元彦
麦類 アブラムシ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	284	—	285	青木元彦
とうもろこし アブラムシ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	291	—		青木元彦
とうもろこし アワノメイガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	292	—		青木元彦
とうもろこし ヤガ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	293	—		青木元彦
ナス科 アブラムシ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	340	—		青木元彦
ナス科 アザミウマ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	336	—	337	青木元彦
ナス科 サツマイモネコブセンチュウ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	342	—		青木元彦
ナス科 タバコガ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	343	—		青木元彦
いちご アブラムシ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	363	—		青木元彦
いちご ネグサレセンチュウ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	368	—		青木元彦
ウリ類 サツマイモネコブセンチュウ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	349	—		青木元彦
ウリ類 カブラヤガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	361	—		青木元彦
アブラナ科 アブラムシ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	370	—	371	青木元彦
アブラナ科 コナガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	372	—	373	青木元彦
アブラナ科 モンシロチョウ(アオムシ)	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	374	—		青木元彦
アブラナ科 ヨトウガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	375	—		青木元彦
アブラナ科 カブラヤガ(ネキリムシ)	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	376	—		青木元彦
アブラナ科 ゴミムシ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	379	—		青木元彦
アブラナ科 キタネグサレセンチュウ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	380	—		青木元彦
アブラナ科 ナガメ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	381	—		青木元彦
アブラナ科 オオモンシロチョウ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	382	—		青木元彦
ねぎ類 ネギコガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	389	—		青木元彦
にんじん カブラヤガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	402	—		青木元彦
アスパラガス ジュウシホシクビナガハムシ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	390	—		青木元彦

(続き)

アスパラガス アザミウマ類	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	391	—		青木元彦
アスパラガス ヨトウガ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	393	—		青木元彦
アスパラガス カンザワハダニ	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	394	—		青木元彦
小麦 眼紋病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	42	—	43	角野晶大
大豆 斑点細菌病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	67	—		角野晶大
小豆 褐斑細菌病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	71	—		角野晶大
馬鈴しょ 半身萎凋病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	95	—		角野晶大
いちご 炭疽病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	163	—		角野晶大
いちご 葉縁退緑病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	164	—		角野晶大
だいこん 黒斑細菌病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	166	—		角野晶大
ねぎ 小菌核腐敗病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	195	—		角野晶大
ごぼう 黒あざ病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	209	—		角野晶大
にんじん 黒葉枯病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	218	—	219	角野晶大
ほうれんそう 萎凋病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	225	—		角野晶大
ダイズ紫斑病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	69	—		三澤知央
カボチャ疫病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	153			三澤知央
イチゴ疫病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	162			三澤知央
ネギ萎凋病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	197			三澤知央
ネギ小菌核病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	194			三澤知央
ネギ葉枯病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	198			三澤知央
ネギ黒斑病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	199			三澤知央
ネギさび病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	200			三澤知央
ネギリゾクトニア葉鞘腐敗病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	203			三澤知央
ホウレンソウ白斑病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	226			三澤知央
ホウレンソウべと病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	227			三澤知央
リンゴ炭疽病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	242			三澤知央
オウトウ炭疽病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	245			三澤知央
ブドウ晩腐病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	248			三澤知央
ブドウ根頭がんしゅ病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	250			三澤知央
ブドウ環紋葉枯病	新・北海道の病害虫ハンドブック全書	ニューカントリー別冊	251			三澤知央
ニラ白斑ニラ白斑葉枯病の病原菌の種構成と薬剤防除対策	武蔵野ニュース			11月上旬発刊		三澤知央
ネギ葉枯病	農業総覧 防除資材編			12月発刊		三澤知央
小菌核腐敗病・白かび腐敗病・菌糸腐敗病	農業総覧 防除資材編			12月発刊		三澤知央
ネギ小菌核病	農業総覧 防除資材編			12月発刊		三澤知央
ネギリゾクトニア葉鞘腐敗病	農業総覧 防除資材編			12月発刊		三澤知央

続き

ネギ葉枯病	農業総覧 診断防除編		12月発刊			三澤知央
ネギ菌糸腐敗病	農業総覧 診断防除編		12月発刊			三澤知央
ネギ小菌核病	農業総覧 診断防除編		12月発刊			三澤知央
ネグリゾクトニア葉鞘腐敗病	農業総覧 診断防除編		12月発刊			三澤知央
北海道のトマト栽培における牛糞堆肥の連用効果	北農	84巻3号	252	—	260	林哲央、日笠裕治
役に立つ肥料の知識「植物に必要な元素と肥料要素の働き①」	ニューカントリー	4月号	48	—	50	日笠裕治
役に立つ肥料の知識「植物に必要な元素と肥料要素の働き②」	ニューカントリー	5月号	52	—	53	日笠裕治
「北海道施肥ガイドの2015」の使い方	ニューカントリー	6月号	48	—	49	日笠裕治
豆類の有用性(北海道の食が地域経済を支える～⑦豆類)	月刊クオリティー	7月号	72	—	73	加藤 淳(取材記事)
あずき水ダイエットについて	女性セブン	10月5日号	132	—	133	加藤 淳(取材記事)
「交流」で拓く道南農業の未来	@h(アット・エイチ)	Vol.55(2017秋号)	16	—	19	加藤 淳(取材記事)
温暖な道南地域では、大納言小豆は6月上～中旬播きが最適	農家の友	5月号		—		田澤暁子
ニンジン黒あざ病	インターネット版日本植物病害大事典 新病害情報					三澤知央
北海道でのさつまいも苗増殖法	ニューカントリー	4月号				高濱雅幹
冬季の北海道における供給強化に向けた無加温ハウスでの葉菜類生産	めぐりさろん21	No.69				高濱雅幹
北海道でのベビーリーフの品目特性と土耕栽培技術	土づくりとエコ農業	2/3月号				高濱雅幹
冬にこまつな、リーフレタスを	ニューカントリー	1月号	71			高濱雅幹(取材記事)
役に立つ肥料の知識「施設野菜における施肥管理の考え方」	ニューカントリー	3月号	50	—	52	奥村 理
露地夏秋どりネギのチェーンポット内施肥によるチッ素・リン酸減肥栽培技術	農耕と園芸	12月号	18	—	21	上野 達
農業技術体系作物編『土壌病害抵抗性と高い加工適性を併せ持つ大納言アズキ品種「ほまれ大納言」』	農文協		44	—	46	田澤暁子

②書籍

書籍名(記事名)	出版社名	ISBN	ページ			著者名
あずき水ダイエット	宝島社	ISBN978-4-8002-7263-8	1	—	80	加藤 淳(監修)
井村屋さんの毎日ほっこりあずきレシピ	主婦の友社	ISBN978-4-07-425774-4	6	—	9	加藤 淳
薬にたよらず血圧を下げる本	宝島社	ISBN978-480027176	56	—	57	加藤 淳

4) 新聞記事

公表成果名	新聞名	発行日	著者名
温暖な道南地域では、大納言小豆は6月上～中旬播きが最適	農業共済新聞	5月第2週	5月第2週

6. 印刷刊行物

- (1) 平成28年度 北海道立総合研究機構道南農業試験 場年報 (平成29年9月、37頁、H P 公開)
- (2) 第20回道南農業新技術発表会要旨 (平成30年2月、20頁、200部)

7. 技術指導・技術相談

(1) 技術指導

発表、講演等の名称	講師氏名	月日	依頼元	内容
農業体験学習における栽培技術の指導について	日笠 裕治	4/26	北斗市体験学習事業実行委員会	北斗市民を対象とした農業体験学習について、栽培技術の指導を行った。
創造実験の技術面での指導について	中住 晴彦	5/9、6/8、7/18、7/28、8/4、8/8	函館工業高等専門学校	専攻科2年生が実施する複合創造実験について、技術面の指導を行った。
さつまいも現地栽培講習会	高濱 雅幹	5/23	JA函館市亀田	さつまいも栽培経験の無い生産者に定植方法の指導を行った
小豆の健康機能性と新品種の特性	加藤淳	5/23	豆類加工研究会	第57回豆類加工研究会において、小豆の健康機能性と新品種「エリモ167」の特性について基調講演した。
道南農業の将来と地球温暖化の及ぼす影響	加藤淳	5/30	函館市亀田老人大学	函館市主催の亀田老人大学において、道南農業の将来方向と地球温暖化が及ぼす農業への影響について講演した。
さつまいも栽培講習	高濱 雅幹	5/25	JA函館市亀田	さつまいもの定植方法について現地圃場で指導
標準土壌の作成と分析値について	日笠 裕治	6/22	渡島農業改良普及センター	標準土壌の作成と分析値の提示した
アワノメイガの被害とその対策	青木元彦	7/3	渡島農業改良普及センター	アワノメイガの被害とその対策を説明した
アワノメイガの被害とその対策	青木元彦	7/18	渡島農業改良普及センター	アワノメイガの被害とその対策を説明した。
おいしい北海道米ができるまで「赤毛」から「ゆめぴりか」への展開	佐藤 毅	7/27	能代山本教育研究会	能代山本教育研究会研修会で講演した
可給態ケイ酸の分析指導	日笠 裕治	8/2	北斗市農業センター	可給態ケイ酸の分析指導を行った
粘着板に誘殺されたアザミウマ類の同定と有効薬剤	青木元彦	8/3	渡島農業改良普及センター渡島北部支所	左記の説明を行った
平成29年度土づくり現地研修会	日笠 裕治	8/3	北海道農協「土づくり」運動推進本部	野菜畑の土づくりの意義について講演
あずき水ダイエット ～その裏側を科学する～	加藤淳	8/26	道南地域WAKU2協議会	函館鳥屋書店において、著書及びTV番組で紹介された「あずき水ダイエット」について、科学的な裏付けを説明した。
あずき水の作り方 ～講義及び実習～	加藤淳	8/27	道南地域WAKU2協議会	函館鳥屋書店において、あずき水の作り方について講義し、共演者が調理実習をした。
ネギ病害の発生生態と防除対策	三澤知央	9/14-15	農研機構	ネギの葉枯病、特に黄色斑紋病斑の発生生態と防除対策について講演した
さつまいも栽培講習	高濱 雅幹	10/6	JA函館市亀田	さつまいもの収穫方法について現地圃場で指導
北海道フードマイスター検定受験対策セミナー「食料生産事情」	加藤淳	10/10	札幌商工会議所	第25回北海道フードマイスター検定の受験対策セミナーにおいて、「食料生産事情」について講義した。
見直そう、豆の力と豆料理	加藤淳	10/13	北海道豆類振興会	北海道豆トークショー2017において、豆類の健康機能性について基調講演した。
あずき水の作り方	加藤淳	10/14	農業・農村ふれあい実行委員会	「農業農村体験フェスタin赤レンガ」において、あずき水の作り方について講義し、共演者が調理実習をした。
リーフレタス・サニーレタス現地研修会	高濱 雅幹	10/17	JA新はこだて	リーフレタス冬季栽培について現地視察および栽培管理についてのアドバイス

続き

落合から津軽海峡を渡っておいしい北海道米の品種改良をするまで～「ゆめびりか」誕生秘話～	佐藤 毅	10/17	能代市立東雲中学校および同窓会	東雲中学校70周年記念キャリア講演会
いちご新品種「ゆきさら」の栽培技術について	中住 晴彦	10/24	渡島農業改良普及センター	栽培技術について説明した
いちご新品種「ゆきさら」の栽培技術について	中住 晴彦	10/25	檜山農業改良普及センター	栽培技術について説明した
さつまいも栽培試験のとり進め方について	高濱 雅幹	11/8	JA函館市亀田	H32年青年部プロジェクト発表に向けた試験計画についてアドバイス
食と健康講演会「食で健康に！小豆のチカラ」	加藤淳	11/25	京極町農民同盟	京極町三部会合同講演会において、「小豆の健康機能性」について講演した。
北海道の農業と植物病害の研究	三澤知央	11/28	北斗市立上磯中学校	北海道農業の特徴と病害研究について講演した
北海道のニラ栽培における主要病害・その診断と防除	三澤知央	12/14-15	山形県	ニラに発生する病害と白斑葉枯病の防除対策について講演した
「道南地域特産セミナー」	加藤淳	12/7	北海道農政事務所	「道南地域における新規作物の可能性」について基調講演、及びパネルディスカッションのコーディネータを務めた。
北海道フードマイスター資格更新講習	加藤淳	1/13	札幌商工会議所	北海道フードマイスターの資格更新講習会において「地球温暖化が及ぼす食への影響」について講義した。
野菜害虫の生態と防除	青木元彦	1/16	札幌市	野菜の主要害虫について講演した。
北海道フードマイスター検定受験対策セミナー「食料生産事情」	加藤淳	1/27	札幌商工会議所	第26回北海道フードマイスター検定の受験対策セミナーにおいて、「食料生産事情」について講義した。
ネギ病害の発生生態と防除対策	三澤知央	1/29-30	岩手県	ネギの葉枯病を中心にネギ病害の発生生態と防除対策について講演した
北海道のニラ栽培における主要病害・その診断と防除	三澤知央	2/6-7	全国にら生産者大会	ニラに発生する病害と白斑葉枯病の防除対策について講演した
暖房なしで真冬に薬物野菜を作ろう！	高濱 雅幹	2/14	花野菜技セ	旭川市で開催された冬野菜セミナーにて葉菜類の無加温冬季栽培方について講演した。
リゾクトニア菌の診断講習	三澤知央	2/14	渡島農業改良普及センター	リゾクトニア菌の診断方法について講演した
北海道フードマイスター資格更新講習	加藤淳	2/18	札幌商工会議所	北海道フードマイスターの資格更新講習会において「地球温暖化が及ぼす食への影響」について講義した。
平成29年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫	青木元彦	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
水稲の直播栽培におけるイネドロオウムシを主体とした初期害虫の効率的防除法	青木元彦	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
タマネギのネギハモグリバエの発生生態および防除対策	青木元彦	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
YES!clean栽培に対応できるスイートコーン害虫防除法	青木元彦	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
特別栽培のためのだいこん病害虫の防除体系	青木元彦	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
水稲の紋枯病と赤色菌核病の発生生態と防除対策	角野晶大	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
ジャガイモ黒あし病の診断マニュアルと種ばれいしょ生産工程における保菌リスク	角野晶大	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。

(続き)

タマネギの小菌核病に対する効率的防除対策	角野晶大	2/19	厚沢部町	1月に成績会議に提出された左記課題について説明した。
道南地域の栽培状況と道産さつまいも品質・食味、加工適性について	高濱 雅幹	2/26	渡島農改・JA函館市亀田	函館市で開催されたさつまいも試作報告会にて道南地域のさつまいも生産の状況と道産さつまいもの特性について講演した。
さつまいも生産・加工・商品化に関する取り組み	高濱 雅幹	2/26	渡島農改・JA函館市亀田	函館市で開催されたさつまいも試作報告会にてさつまいも生産・ペースト加工・商品化に係る一連の生産性や作業性について説明した。
苗採りにチャレンジ!! 北海道でのさつまいも育苗法	高濱 雅幹	2/28	北海道さつまいも懇話会	深川市で開催された情報交換会でさつまいも苗の増殖法について講演した。
地域資源の魅力 ～小豆の健康機能性と付加価値向上～	加藤淳	3/1	函館ロータリークラブ	函館ロータリークラブの例会において、卓話の講師を務めた。
北海道米の苦難の歴史ととてもおいしくなった理由 やっかいどう米から特Aランク獲得まで	佐藤 毅	3/8	札幌市	さっぽろ市民カレッジ(アンビシャスが生んだ北の恵み 北海道農業の歩み)で講演した。
有機栽培におけるカボチャ病害の防除	三澤知央	3/9	森町	有機栽培におけるカボチャ病害の防除対策について講演した。
北海道の農産物の魅力 ～豆類の機能性と付加価値の向上～	加藤淳	3/13	農研機構・産総研	「アグリテクノフェア in 北海道」講演会において、北海道の農産物の魅力について講演した。

(2) 技術相談

項 目	件 数
電話・メール・公開デー相談コーナーによるもの	156件
	内訳 電話43件、メール55件、メール後再対応(電話か来場)5件、来場26件、現地での口頭問合わせ13件、公開デー27件
病虫害診断・生理障害診断(分析等)に基づくもの	54件
	内訳 診断別：病害25件(46%)、虫害6件(11%)、生理障害9件(117%)、その他不明14件(26%) 作目別：野菜30件(56%)、果樹1件(2%)、畑作13件(24%)、花き7件(13%)、水稻3件(5%)

IV その他の活動

1. 職員研修

受講者	研修名	期間	場所
佐々木光浩	会計制度研修	4.23～4.24	道総研プラザ(札幌市)
佐藤 毅	新任研究部長級研修	5.24～5.26	道総研プラザ(札幌市)
佐々木光浩	新任主査級研修	7.6～7.7	渡島総合振興局(函館市)
佐藤 毅	第2回広報研修	8.24～8.25	道総研プラザ(札幌市)
石黒 一幸	クレーム対応研修	9.4	渡島総合振興局(函館市)
加藤 淳 小滝 宏樹 日笠 裕治	ナイスライフセミナー	9.12	渡島総合振興局(函館市)
順西奈緒	農作業事故ゼロ運動推進研修会	2.20～2.21	札幌市
加藤 淳 佐藤 毅	工業技術センター研究成果発表会	5.18	函館市(函館国際ホテル)
佐藤 毅	主要農作物種子法廃止に係わるブロック説明会	5.19	札幌市(北海道大学)北海道自治労会館
日笠裕治 乙部 裕一	北海道土壌肥料協議会現地検討会	6.14-6.16	北見市、小清水町、清里町
加藤 淳	渡島管内指導農業士・農業士夏期研修会	8.8	知内町
佐藤 毅	第2回広報研修	8.25	札幌市(北海道大学)
高濱 雅幹	さつまいも懇話会現地見学会	8.28	滝川市、深川市
中住 晴彦	園芸学会平成29年度秋季大会	9.1-9.3	酪農学園大学
乙部 裕一	平成29年度NATEC研究情報交換会	9.7-9.8	滝川市、深川市
加藤 淳 日笠裕治	日本土壌肥料学会2017年度仙台大会	9.5-9.7	仙台市
佐藤 毅	市民公開・農学特別講演会	9.29	札幌市(北海道大学)
中住 晴彦 乙部 裕一	道南NATEC秋季研修会	10.12-10.13	岩見沢市、江別市、札幌市、千歳市
加藤 淳 日笠裕治	日本土壌肥料学会2017年度北海道支部秋季大会	11.30	札幌市
三澤 知央	第11回病害診断研究会	11.15-11.16	帯広市
佐藤 毅	日本育種学会作物学会北海道談話会	12.2	酪農学園大学
高濱 雅幹	いも類研究会	12.7	熊本県
佐藤 毅	北海道イネ研究会	12.8	札幌市(北海道大学)
加藤 淳 中住晴彦	NATEC研究交流会	2.21	かでる2.7
加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦 奥村 理 高濱 雅幹	農業新技術発表会(全道)	2.22	かでる2.7
加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦 乙部 裕一 猫塚 雅彦 辻 敏昭	道南新技術セミナー	2.23	せたな町
尾崎 洋人 田澤 暁子	理事長セミナー	3.20	道総研プラザ
角野晶大	北日本病害虫研究発表会	2.15-2.16	八戸市
加藤 淳	日本食品科学工学会北海道支部大会	3.9	網走市

2. 研修の受け入れ

研修名	受入月日	人数	研修対象	内容
大野中学生 職場体験学習	8月29日	3	北斗市大野中学校 1年生	中学生に、土壌分析、生育調査、作物の収穫について実体験をしてもらった
大野農業高等学校 農業経営者育成研修	9月12日	5	大野農業高等学校 3年生	高校生に、農業試験場の概要を説明した

3. 参観

参観者数

(単位：名)

参観項目	平成29年									平成30年			計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	2	3	
一般					147	30	34	49					260
水稲				42	10		23						75
野菜			32	10				38			5		85
栽培環境					100								100
病虫					20								20
計			32	52	277	30	57	87			4		540

(参観件数計22件、8月は農試公開デーの122名を含む)

4. 主催事業等

(1) 第23回農試公開デー

①日時：平成29年8月9日(水) 13～16時、参加者122名

②内容：ア)見学会：ユリの木、水稲展示圃、水稲世代促進温室、サツマイモ、土の観察、ブロッコリー

イ)パネル)新しい品種技術の紹介、標本展示、体験)白米までのを知らう、ウ)相談コーナー、家庭菜園・作物栽培、肥料、病害虫診断 エ)試食コーナー：ポップコーン、あずき水、あずきかん オ)農業機械展示コーナー

(2) 研究成果発表会（道南農試主催、*檜山地域農業技術支援会議主催）

名 称	開催地 日時	参加 者数	内 容
第20回道南農業 新技術発表会	北斗市農業 振興セン ター 平成30年2 月20日(火) 13:00～ 16:00	94	発表課題 1. 新しい技術等 1)暖房なしで真冬に葉物野菜を作ろう！ 高濱 雅幹 2)ハチがいらない！単為結果性トマトの特徴 中住 晴彦 3)ブロッコリーは苗にリン酸！畑では半分 奥村 理 4)スイートコーンの化学肥料5割削減技術 日笠 裕治 5)害虫の適期防除でスイートコーンのYES!clean栽培が可能 青木 元彦 6)北海道でのさつまいも苗のふやしかた 高濱 雅幹 7)要注意！水稲の紋枯症状～発生の実態と新しい防除対策～ 角野 晶大 2. 農業改良普及センター 活動紹介 1)新品目導入！～冬野菜が高収益化～ 渡島農業改良普及センター 金ヶ崎 一美
檜山地域農業技 術支援会議 平成29年度新技 術セミナー*	せたな町 中央ふれあ いプラザ多 目的ホール 平成30年2 月23日(金) 13:00～ 15:00	65	1. プロジェクト課題 1)大豆「ゆめのつる」の割れ対策の検討(檜山農業改良普及センター檜山 北部支所) 立野正純 2. 新技術発表 1)水稲の紋枯病と赤色菌核病の防除、水稲直播向き新品種「上育471号」 (技術普及室)猫塚雅彦 2)畑での補助暗渠による疎水材暗渠の機能回復効果と持続性 乙部裕 一 3)スイートコーン害虫は適期防除でYES!clean栽培も可能 (技術普及室) 猫塚雅彦 4)暖房なしで真冬に葉物野菜を作ろう！ 中住 晴彦

(3) 普及組織及び振興局との連絡会議等共催および参加

主催者	区分	回数 (調査 除く)	会議名	回数 (調査 除く)	開催日											
渡島地域農業技術支援会議	諸会議	6	関係者会議 代表者会議 事務局会議	1 2 3	2/20 6/22 6/1	1/31 10/3	12/22									
	プロジェクト課題 (斜体は調査)	6	ニラ炭酸ガス トマト褐色根腐	3 3	4/20 5/18	8/30 5/23	10/11 7/20	11/13 7/25	11/27 1/10	12/12	1/16	2/2	3/6			
			諸会議	9	関係者会議 三者会議 事務局会議 要望課題調査 新技術セミナー 檜山業務連携会議	1 2 3 1 1 1	2/23 6/12 4/27 10/18 2/23 6/12	1/29 9/28	12/20							
技術普及室	プロジェクト課題 (斜体は調査)	8	立茎アスハラ ゆめのつる 春よ恋	1 3 4	6/9 4/19 4/17	7/10 9/12 4/19	8/7 12/21 5/24	9/4	11/20	1/30						
			渡島業務連携会議 若手・中堅職員の見聞情報交換会	1 0	6/22 なし											
道南地域農業技術センター連絡 会 (NATEC)	諸会議	2	総会 役員会	1 1	4/26 1/11											
	研修会	1	秋期研修会	1	10/12～13											
渡島農業改良普及センター	部門別・総合研修	7	稲作担当者会議 総合研修	6 1	4/26 3/12	7/26	8/4	11/17	2/14	3/12						
			稲作担当者会議 総合研修	1 1	5/9 3/14											
檜山農業改良普及センター	部門別・総合研修	2	稲作担当者会議 総合研修	1 1	5/9 3/14											

5. マスコミ対応

取材機関	取材内容	対応者	放映、掲載
農業共済新聞	温暖な道南地域では、大納言小豆は6月上～中旬播きが最適	田澤暁子	5月第2週
朝日新聞	あずき博士のメッセージ	加藤 淳	6/1朝刊(井村屋株式会社・企画広告)
函館新聞	あずき水でダイエット	加藤 淳	6/21
函館新聞	国際誌に論文2本同時掲載	三澤知央	6/27
バルシステム(関東生協連合会)	北海道産小豆の価値について	加藤 淳	「きなり」6月第4週号
農経新聞	道南農業試験場 道内園芸農業に寄与地域対応の品種、技術等	道南農試	7/10
函館新聞	稲穂 早くも黄金色 試験水稻の稲刈り	尾崎洋人、田澤暁子、佐々木盛久、竹内達哉	7/25
函館新聞	小豆パワー (海峡から)	加藤 淳	7/30
FMいるか	道南農試公開デーの宣伝と水稻育種について	佐藤 毅	FMいるか「人ネットワーク」8/2 11:10～11:40
日本農業新聞	土作り農業の要 野菜に焦点を当て研修	日笠裕治	8/5
北羽新報	能代山本教育研究会 コメ品種改良の現場は 苦労ややりがいを解く	佐藤 毅	8/8
函館新聞	農試の仕事 理解深める 公開デー 土壌やイネ品種見学	加藤 淳	8/10
FMいるか	あずき水ダイエットや煮小豆ようかんについて	加藤 淳	FMいるか「人ネットワーク」8/14 11:10～11:40
日本経済新聞	食物繊維豊富なアズキ	加藤 淳	8/22 夕刊「食ナビ」
函館新聞	小豆パワーで健康に 豆講座 農学博士・加藤さん語る	加藤 淳	8/29
日経ウーマン	あずき水の作り方・効果	加藤 淳	日経ウーマンオンライン 9/7 (Web記事)
北羽新報	能代市立東雲中学校 創立70周年キャリア講演会 コメの品種改良理解	佐藤 毅	10/28
函館新聞	種苗会社冊子にニラの病害研究	三澤知央	11/15
北海道新聞	秋採りエンドウ 試験栽培 せたな「所得増につながれば」	高橋 恒久	11/17
北海道新聞(夕刊)	道産の特徴に注目 商品化へ羊糞試作	高濱雅幹	11/22
朝日新聞	耕論 タネを考える 新品種をめざす動機 常に	佐藤 毅	11/23
FMいるか	「ふっくりんこ」の開発経緯	尾崎洋人 佐藤 毅	FMいるか11/23特別番組「ふっくりんこの軌跡」
北海道新聞(夕刊)	野菜・果樹作り 基礎知識を講習	猫塚雅彦	11/24
マイロハス	冷えも便秘も、貧血も…… プチ不調の救世主は「あずき」	加藤 淳	マイロハス11/27 (Webマガジン)
函館新聞	道南特産 新たな価値探る 来月7日ホクトでセミナー	加藤淳	11/29

(続き)

函館新聞	新品種開発へ 冬の稲刈り	尾崎洋人、 佐々木盛久、 竹内達哉	11/30
北海道新聞	新規作物の可能性を探る 道南地域特産セミナー	加藤淳	12/8
日本農業新聞	新規作物で活性化を 北斗市で特産品セミナー	加藤淳	12/13
北海道新聞	北海道科学技術奨励賞 発表	三澤知央	12/27
日本農業新聞	全国にら生産者栃木大会 白斑葉枯病	三澤知央	2/8
日本農業新聞	冬季無加温ハウス 雇用、所得確保に期待	高濱雅幹	2/15
北海道新聞(夕刊)	新技術発表会 冬に無暖房でハウス栽培	佐藤 毅	2/16
函館新聞	農業の新技術発表 葉菜類の冬季生産法など	高濱雅幹 中住晴彦	2/21
日本農業新聞	葉物野菜を無加温で作る 道南農試研究成果を発表	道南農試	2/26
北海道新聞	道南米ふっくりんこ食味「特A」から陥落	尾崎 洋人	3/2
函館新聞	冬に葉菜野菜栽培を(道南農業新技術発表会)	道南農試	3/4
函館新聞	「煮小豆」が新技術賞	加藤 淳	3/16
函館蔦谷書店	和菓子のカナメ・豆の話	加藤 淳	peeps 3月号(3/10)

6. 委員会活動

(1) 情報システム委員会

① 構成：委員長；奥村 理（生産環境グループ）、委員；田澤暁子（地域技術グループ）、三澤知央（生産環境グループ）、順西奈緒（生産環境グループ）、石黒一幸（総務課）、辻 敏昭（技術普及室）

② 活動：イントラネットの管理およびホームページの更新（計20回）を行った。主な更新事項は以下のとおり。

- ア 道南農試主催行事等の案内
- イ 道南農試主催行事等の開催結果
- ウ 作況報告

(2) 施設管理委員会

① 構成：委員長；中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、委員；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、小滝宏樹（総務課長）、佐々木光浩（総務課主査（総務））、尾崎洋人（地域技術グループ主査）、青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））、佐々木盛久（生産環境グループ）

② 活動：第1回は平成29年7月4日に開催し、施設整備・備品整備等について検討した。第2回は平成29年11月16日に持ち回り決裁の形で行い、備品整備について確認した。

(3) 業務委員会

① 構成：委員長；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、委員；竹内達也（生産環境グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、奥村理（生産環境グループ）、角野晶大（生産環境グループ）

② 活動：4月から10月の毎週木曜日に業務委員会を開催し、作業計画の立案及び人員の配置等について協議した。

(4) 安全衛生会議

① 構成：議長：加藤 淳（場長） 議員：小滝宏樹（総務課長）、佐々木光浩（主査（総務））、日笠裕治（研究主幹）、奥村理（労組支部長）、田澤暁子（労組書記長）、竹内達哉（労組推薦）

② 活動：平成29年5月11日に安全衛生会議を開催し、職場安全衛生実施計画を決定した。実施計画に基

づき、各取組みを実施した。

(5) 図書委員会

① 構成：委員長；青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））、委員：石黒一幸（総務課）、順西奈緒（生産環境グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、奥村 理（生産環境グループ）、猫塚雅彦（協力、技術普及室主任普及指導員）

② 活動：集報等の希望配布のとりまとめ、受け入れ図書・資料の整理を行った。

(6) 研修・参観案内委員会

① 構成：委員長；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、委員；中村圭志（総務課）、佐々木盛久（生産環境グループ）、中住晴彦（地域技術グループ）、乙部裕一（地域技術グループ主査（地域支援））、辻 敏昭（協力、技術普及室主任普及指導員）

② 活動：平成29年6月8日に参観案内資料（圃場配置図、試験概要など）をもとに場員、振興局及び普及センター職員が参加して、参観案内リハーサルを実施した。

(7) 土壌病害虫場内対策検討委員会

① 構成：委員長；佐藤毅（研究部長）、委員；小滝宏樹（総務課長）、日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、青木元彦（主査（病虫））、竹内達哉（（生産環境グループ主任））、ワザンバー加藤淳（場長）

② 活動：9/13で委員会を開催。指針、隔離圃場、隔離圃場管理マニュアルを改訂し、庁内会議で承認された。

(8) 場代表連絡員等

1) 情報システム運営委員

① 委員：奥村 理（生産環境グループ主任主査（栽培環境））

② 活動：情報システムの運営管理のために、農業

研究本部との連絡調整、場内IPアドレスの管理等の業務を行った。

2) 植物遺伝資源連絡員

① 構成：委員：尾崎洋人（地域技術グループ主査（作物））

② 遺伝資源の保存や調査に関する9つの事項が報告され、了承された。各場での遺伝資源の緊急増殖は今年度で終了し、H30以降遺伝資源部で対応する。協議事項では遺伝資源提供要領の見直し等について検討を行った。また、リレーショナルデータベース構築の中間報告が行われた。

3) 北農連絡員

① 委員：奥村 理（生産環境グループ主任主査（栽培環境））

② 活動：北農の発行などについて、北農会との連絡調整を行った。

4) 図書連絡委員

① 委員：青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））

② 活動：道総研農試報告、集報、資料について、配布希望のとりまとめを行った。

5) 作況気象連絡委員

① 委員：尾崎洋人（地域技術グループ主査（作物））

② 活動：農試の気象および水稻の作況のとりまとめを行った。

(9) 外部委員会等への参加

1) 檜山振興局農業農村整備事業環境情報協議会

① 委員：佐藤 毅（研究部長）

② 活動：平成29年7月20日に厚沢部町で標記協議会が開催され、これに出席した。

7. 場内研修

研修等名	主な内容	開催日	受講者数
競争的資金等不正防止研修	パワーポイントにより「研修費の適切な執行と健全な研究活動に向けて」を説明	4/18	19
契約職員研修	契約職員による休暇処理の手続き、給与明細の見方	5/13	20
安全運転講習会	飲酒運転根絶に関する研修	8/3	31
救急講習	消防へ講師依頼し、救急時の対応やAEDの使用方法などを	11/14	20
道南農業新技術発表会予演会	8講演、高濱雅幹、奥村理、中住晴彦、日笠裕治、青木元彦、角野晶大、金ヶ崎一美(渡島普及センター)	2/7, 2/13	15
中国黒竜江省の現況と国際雑穀会議に参加して	ハルビンを初めとする黒竜江省の都市におけるインフラ整備、一般市民の日常生活、農業科学院などの研究組織の現況等を紹介「2017国際雑穀会議」の様子を報告 加藤淳	1/5	20
北海道科学技術奨励賞受賞記念講演会	「野菜類の新病害の原因解明と病原性検定手法及び防除法の開発」 三澤 知央	3/2	15

表の上段は総務、下段は研究

8. 表彰・資格

受賞者氏名	表彰事項	受賞年月日
三澤 知央	北海道科学技術奨励賞 野菜類の新病害の原因解明と病原性検定手法及び防除法の開発	平成30年2月20日
田村 元、清水基滋、 加藤 淳、中津智史、 竹内晴信、 <u>角野晶大</u>	北農賞 北海道における有機栽培ばれいしょの安定生産技術	平成29年12月15日

9. 外部委員会等への参加

(1) 学会役員・委員

名 称	機関名	氏名
日本土壌肥料学会 代議員	日本土壌肥料学会	加藤 淳
日本食品科学工学会 代議員	日本食品科学工学会	加藤 淳
北海道フードマイスター検定 運営委員会 副委員長	札幌商工会議所	加藤 淳
日本土壌肥料学会代議員	日本土壌肥料学会	日笠裕治
渡島スマートアグリ事務局委員	渡島スマートアグリ事務局(渡島総合振興局)	佐藤 毅
北海道科学技術審議会 函館地域懇談会委員	北海道経済部産業振興局科学技術振興室	佐藤 毅
函館市農業委員候補者選考委員	函館市	佐藤 毅
檜山振興局道営農業農村整備事業環境情報協議会委員	檜山振興局	佐藤 毅
北斗市農業振興対策協議会委員	北斗市	佐藤 毅
Journal of Plant Studies 編集委員	Canadian center of science and education	三澤知央
生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)世話人	生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)	三澤知央
日本植物病理学会 植物病害診断研究会 幹事	日本植物病理学会	三澤知央
園芸学会平成29年度秋季大会実行委員	園芸学会	中住晴彦
地熱・温泉熱アドバイザー	北海道経済部	中住晴彦

(2) 技術審査

審査名称等	相手方	月日	担当者	審査内容
論文査読	北日本病虫研究報	5月	三澤 知央	ネギ病害に関する論文を審査した
論文査読	北日本病虫研究報	5-7月	三澤 知央	花の新病害に関する論文を審査した
論文査読	北日本病虫研究報	5-7月	三澤 知央	ネギ病害に関する論文を審査した
論文査読	Canadian Journal of Plant Pathology	8月	三澤 知央	Stemphylium菌に関する論文を審査した
論文査読	Canadian Journal of Plant Pathology	9月	三澤 知央	Stemphylium菌に関する論文を審査した
論文査読	J Gen Plant Pathol	11月	三澤 知央	リンゴ病害に関する論文を審査した
論文査読	Plant Disease	12月	三澤 知央	薬用植物病害に関する論文を審査した
書面審査	農林水産・食品産業技術振興協会	11月21日	佐藤 毅	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業平成29年度中間評価に係る書面審査
書面審査	農林水産・食品産業技術振興協会	3月12日	佐藤 毅	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業平成29年度事後評価に係る書面審査
書面審査	農林水産・食品産業技術振興協会	3月22日	佐藤 毅	イノベーション創出強化研究推進事業1次書面審査

(3) 振興局対応

名称	相手方	開催日	出席者	開催地
渡島スマートアグリ研究会事務局会議(1回目)	渡島総合振興局	7/24	佐藤 毅	北斗市
渡島スマートアグリ研究会「八雲町プロジェクトチーム」検討会	渡島総合振興局	10/31	佐藤 毅	北斗市
渡島スマートアグリ研究会事務局会議(2回目)	渡島総合振興局	12/22	佐藤 毅	北斗市
檜山振興局道営農業農村整備事業環境情報協議会	檜山振興局環境情報協議会	7/20	佐藤 毅	厚沢部町
渡島スマート農業推進セミナー	渡島総合振興局	2/22	佐藤 毅	北斗市

(4) 展示会等への出展

名 称	出展日	イベント名称	開催地	内 容
農作物の害虫を知ろう	8/27	はこだて国際科学祭「科学屋台」	函館市	道南農試公開デーを、事務局を公立はこだて未来大学が行っているはこだて国際科学祭のプレイベントとしても実施するとともに、五稜郭タワーでの科学屋台のイベントに参加した。
単為結果性トマトのパネル展示と試食会	9/16	食べる・たいせつフェスティバル2017 in 函館	函館市	北海道産単為結果性トマトの認知度を高める目的で、来場者に道南農試産トマトの試食を行い、併せてアンケート調査による認知度調査を実施。
スイートポテタルトの試食会	1/14	奨励研究課題で実施	函館市	北海道産さつまいもの認知度を高める目的で、函館空港来場者に道南農試産さつまいものペーストを使ったタルト試食を実施し、アンケート調査を行った。

V 自己点検

1. 平成29年度計画に係る項目別実績の自己点検結果

連番	項目番号	項目	件数	備考
1	1	研究ニーズ調査によるニーズ把握件数(H29)	0	H29
4	1	各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数(H29)	8	H29【別途調査】
7	1	次年度新規課題となったニーズ件数(H29)	0	H29【別途調査】
10	2	「H30研究展開方向」に定める研究課題数(H29)	0	H29【研究課題データベース】
13	6	重点研究課題数(H29)	0	H29【研究課題データベース】
14	6	うちH29新規重点研究課題数	0	H29【研究課題データベース】
15	6	うち企業と連携した課題数	0	H29【研究課題データベース】
22	7	経常研究課題数(H29)	4	H29【研究課題データベース】
23	7	うちH29新規経常研究課題数	2	H29【研究課題データベース】
28	8	道受託研究課題数(H29)	0	H29【研究課題データベース】
29	8	うちH29新規道受託研究課題数	0	H29【研究課題データベース】
34	8	公募型研究への応募課題数(H29)	3	H29
37	8	公募型研究課題数(H29)	4	H29【研究課題データベース】
38	8	うちH29新規公募型研究課題数	2	H29【研究課題データベース】
43	8	公募型研究の管理法人実施件数(H29)	1	H29
46	8	公募型研究による外部資金獲得金額(H29)	8,245	H29【研究課題データベース】
49	8	一般共同研究課題数(H29)	0	H29【研究課題データベース】
50	8	うちH29新規一般共同研究課題数	0	H29【研究課題データベース】
55	8	一般共同研究による外部資金獲得金額(H29)	0	H29【研究課題データベース】
58	8	受託研究課題数(H29)	0	H29【研究課題データベース】
59	8	うちH29新規受託研究課題数	0	H29【研究課題データベース】
64	8	受託研究による外部資金獲得金額(H29)	5,480	H29【研究課題データベース】
70	10	研究成果発表会・企業等向けセミナーの開催件数(H29)	4	H29
73	10	研究成果発表会・企業等向けセミナーへの延べ参加者数	223	H29
76	10	研究会等の開催件数(H29)	0	H29
79	10	研究会等への延べ参加者数(H29)	0	H29
82	11	展示会等への出展件数(H29)	2	H29
85	11	普及組織との連絡会議等開催件数(H29)	22	H29
88	11	企業等へ訪問し広報活動した件数(H29)	2	H29
89	11	企業等へ訪問し広報活動した件数(H28)	0	H28
91	12	出願中特許等件数(H29)	0	H29
92	12	うち特許等新規出願件数(H29)	0	H29
97	12	特許権等保有件数(H29)	0	H29
98	12	うち特許等新規登録件数(H29)	0	H29
99	12	うち特許権等放棄・権利消滅件数(H29)	0	H29
106	12	出願品種数(H29)	0	H29
107	12	うち新規出願品種数(H29)	0	H29
112	12	登録品種数(H29)	3	H29
113	12	うち新規登録品種数(H29)	0	H29
114	12	うち育成者権登録抹消・存続期間満了品種数(H29)	0	H29
121	12	ノウハウ指定された技術数(H29)	0	H29
122	13	特許等の実施許諾契約件数(H29)	0	H29
123	13	登録品種等の利用許諾件数(H29)	5	H29
130	14	課題対応型支援の実施件数(H29)	0	H29
131	14	技術審査件数(H29)	1	H29

連番	項目番号	項目	件数	備考
148	16	建築性能評価の実施件数(H29)	0	H29
151	16	試験体の製作件数(H29)	0	H29
154	16	構造計算適合性判定の実施件数(H29)	0	H29
157	17	研修会・講習会等の開催件数(H29)	0	H29
160	17	研修会・講習会等の延べ参加者数(H29)	0	H29
163	17	研修者の延べ受入人数(H29)	8	H29
164	17	うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数(H29)	0	H29
165	17	うち大学等の学生の受入人数(H29)	8	H29
172	18	連携協定等の締結件数(H29) ※通算	0	H29
173	18	うち事業を伴った連携協定等の件数(H29) ※通算	0	H29
174	18	連携協定等のうちH22以降に締結したものの件数(H29) ※通算	0	H29
175	18	うち事業を伴った連携協定等の件数(H29) ※通算	0	H29
176	18	H29新規締結件数(H29)	0	H29
187	19	道関係部との連絡会議等の開催件数(H29)	0	H29
188	19	道関係部との連絡会議等の開催件数(H28)	2	H28
189	19	道関係部との連絡会議等の開催件数(H27)	2	H27
190	19	道からの研究ニーズ把握件数(H29) ※研究ニーズ調査	0	H29 ※項目No.1内数
191	19	うち対応したニーズ件数(H29) ※研究ニーズ調査	0	H29
196	19	道からの研究ニーズ把握件数(H29) ※各試験場等直接	4	H29【別途調査】 ※項目No.1内数
197	19	うち対応したニーズ件数(H29) ※各試験場等直接	3	H29【別途調査】
202	19	市町村との意見交換等の開催件数(H29)	2	H29
205	19	市町村からの研究ニーズ把握件数(H29) ※研究ニーズ調査	0	H29 ※項目No.1内数
206	19	うち対応したニーズ件数(H29) ※研究ニーズ調査	0	H29
211	19	市町村からの研究ニーズ把握件数(H29) ※各試験場等直接	0	H29【別途調査】 ※項目No.1内数
212	19	うち対応したニーズ件数(H29) ※各試験場等直接	0	H29【別途調査】
213	19	市町村からの研究ニーズ把握件数(H28) ※各試験場等直接	0	H28【別途調査】※項目No.1内数
217	21	「H29研究展開方向」に定める研究資源(人)の投入人数(H29)	0	H29【研究課題データベース】
220	21	「H29研究展開方向」に定める研究資源(金)の投入金額(H29)	0	H29【研究課題データベース】
223	24	利用者意見把握調査の回答数(H29)	1	H29
224	24	うち業務の改善意見数(H29)	0	H29
225	24	うち改善意見に対する対応件数(H29)	0	H29
232	24	道民意見把握調査の回答数(H29)	170	H29
233	24	うち業務の改善意見数(H29)	6	H29
234	24	うち改善意見に対する対応件数(H29)	3	H29
241	24	関係団体等との意見交換等の開催件数(H29)	15	H29
244	26	階層別研修(研究部長級・研究主幹級・主査級・新規採用職員)の開催回数(H29)	0	H29

連番	項目 番号	項 目	件数	備考
250	26	研究開発能力向上研修の開催回数(H29)	0	H29
253	26	研究開発能力向上研修の受講者数(H29)	0	H29
256	26	国内研修Ⅱ(外部講師招へいによる職場内研修)の開催回数(H29)	0	H29
259	26	国内研修Ⅱ(外部講師招へいによる職場内研修)の受講者数(H29)	0	H29
262	26	H29職員研究奨励事業課題数	1	H29
263	26	うち業績型研究課題数	0	H29
264	26	うちシーズ探索型研究課題数	0	H29
265	26	うち技術支援型研究課題数	1	H29
274	26	海外研修の派遣件数(H29)	0	H29
277	26	海外研修の派遣人数(H29)	0	H29
280	26	国内研修Ⅰの派遣件数(H29)	0	H29
283	26	国内研修Ⅰの派遣人数(H29)	0	H29
286	26	国内研修Ⅱの派遣件数(H29)	1	H29
289	26	国内研修Ⅱの派遣人数(H29)	1	H29
292	29	寄附金の受入件数(H29)	0	H29
295	29	寄附金の受入金額(H29)	0	H29
298	38	視察者・見学者の受入件数(H29)	21	H29
301	38	視察者・見学者の延べ受入人数(H29)	418	H29
304	38	出前授業の実施件数(H29)	1	H29
305	38	道民向けイベントの開催件数(H29)	1	H29
306	38	うち公開デー等の開催件数(H29)	1	H29
313	38	道民向けイベントの延べ参加者数(H29)	121	H29
314	38	うち公開デー等の延べ参加者数(H29)	121	H29
319	38	国際協力事業等への協力件数(H29)	0	H29
322	40	災害等に関係した道受託研究等件数(H29)	0	H29
325	40	災害等に関係した技術指導件数(H29)	0	H29
328	40	災害等に関係した委員派遣件数(H29)	0	H29
331	42	グリーン購入の金額(H29)	183	H29

付表 1. 作物標準栽培法の概要

各試験に共通する水稲、畑作物についての当場の標準栽培法は、下記のとおりであるが、特殊なものについては各試験ごとに記載する。

作物名	栽培方法	苗代種類	選 種	播 種 期	苗 代 (1 m ²)		
					基 肥	追 肥	播 種 量
水 稻	中苗栽培	冷 床	塩水選 (1.06)	4月中下旬	N = 5.6g	N=1g/箱	500g散播
	稚苗栽培				P ₂ O ₅ = 11.1g	N=1g/箱	1kg散播
					K ₂ O = 9.4g		

作物名	栽培方法	施肥量(kg/a)			移植期	畦幅×株間 (cm)	m ² 当 株数	一株 本数	病虫 防除
		基 肥	追肥	同時期					
水 稻	中苗栽培	N = 0.8	—	—	5月下旬	33×12	25株	3 ~ 4	3回
	稚苗栽培	P ₂ O ₅ = 1.0 K ₂ O = 0.7							

備考 除草剤：初中期一発剤フロアブル50ml/a、後期は発生に応じて適時実施。
堆 肥：100kg/a。

作物名	施 肥 量 (kg/a)					畦幅×株間 (cm)	播種期 (月日)	1 株 本数	中耕	除草	防除
	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO						
大 豆	0	0.15	1.17	0.75	0.35	60×20	5.13	2本	1回	3回	6回
小 豆	0	0.30	1.17	0.75	0.35	60×20	6.4	2本	1回	3回	6回

付表 2. 土壤の理化学的特性

土壤条件：中粗粒褐色低地土(一部礫質褐色低地土)

(1) 水田

層 厚	国際法粒径組成 (%)					三相分布 (%)			
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性	固相	液相	気相	孔隙率
0~12cm	23.9	40.2	23.3	12.6	L	44.7	45.7	9.6	55.3
~21	19.1	40.3	18.7	21.9	CL	49.2	49.2	3.9	53.1
~35	6.1	37.7	40.2	16.1	CL	49.1	37.4	13.5	50.9

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交換容量 (me/100g)	リン酸吸収係数
	H ₂ O	KCL						
0~12cm	5.9	4.9	2.2	0.18	12.2	1.0	18.0	846
~21	5.1	4.0	1.2	0.12	9.7	10.2	17.6	742

(2) 畑土壤

層 厚	国際法粒径組成 (%)					容 積 重 (g/100cc)	孔隙率 (%)	有効態リン酸 (mg/100g)	リン酸吸収係数
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
0~14cm	12.1	48.4	24.7	14.8	L	129	50.3	45.5	827
~30	0.5	37.6	45.2	16.7	CL	129	49.9	43.5	1374

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (me/100g)		
	H ₂ O	KCL						Ca	Mg	K
0~14cm	5.3	4.6	2.3	0.19	12.2	3.6	22.5	9.4	1.5	1.0
~30	5.0	5.0	1.0	0.11	9.5	0.7	27.7	18.2	3.5	0.5

平成29年度 道南農業試験場年報

平成30年 9 月

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
農業研究本部
道南農業試験場

〒041-1201 北海道北斗市本町680番地

TEL (0138)77-8116

FAX (0138)77-7347

E-mail donan-agri@hro.or.jp

ホームページ <https://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/dounan/index.html>
